

あま市都市計画マスタープラン

<第2回策定委員会 協議資料>

目次

- 第1章 都市計画マスタープランの位置づけと役割
- 第2章 あま市のこれまでの都市づくり
- 第3章 全体構想（都市レベルの方針）
※都市の将来像、都市づくりの目標、
将来指標の設定

第1章

都市計画マスタープランの位置づけと役割

1 あま市都市計画マスタープランとは

(1) あま市都市計画マスタープランとは

あま市都市計画マスタープラン（以下、「本プラン」という。）とは、都市計画法第18条の2に規定される「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、あま市（以下、「本市」という。）が定める「第2次あま市総合計画」や愛知県が定める「名古屋都市計画区域の整備、開発及び保全に関する方針（名古屋都市計画区域マスタープラン）」に即して定めるものです。

(2) 本プラン策定の目的

本プランは、本市を取り巻く社会経済情勢の変化に柔軟に対応しながら、持続可能な都市づくりを目指すため、今後の都市計画の方向性を示すために策定するものです。

あま市都市計画マスタープラン（前プラン）の策定

2010（平成22）年の合併を機に、本市が目指す都市づくりの指針を明確にするために、2012（平成24）年12月に策定しました。

前プラン策定後の約10年間で変化した社会経済情勢

前プランが策定されてからの約10年間で、様々な社会経済情勢が変化しており、本市においても、これらの変化に対応した都市づくりが求められています。

- ・人口減少、超高齢社会の進展
- ・大規模自然災害に対する防災意識の高まり
- ・都市施設の老朽化とそれに伴う維持管理費の増大
- ・多様化するライフスタイルや市民ニーズ

変化する社会経済情勢等に対応した、新たなあま市都市計画マスタープランの策定

上記の社会経済情勢等の変化に柔軟に対応した都市づくりへと転換するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）を念頭に置いた持続可能な都市づくりを目指す指針として、本プランを策定します。

SDGs（持続可能な開発目標）とは...

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

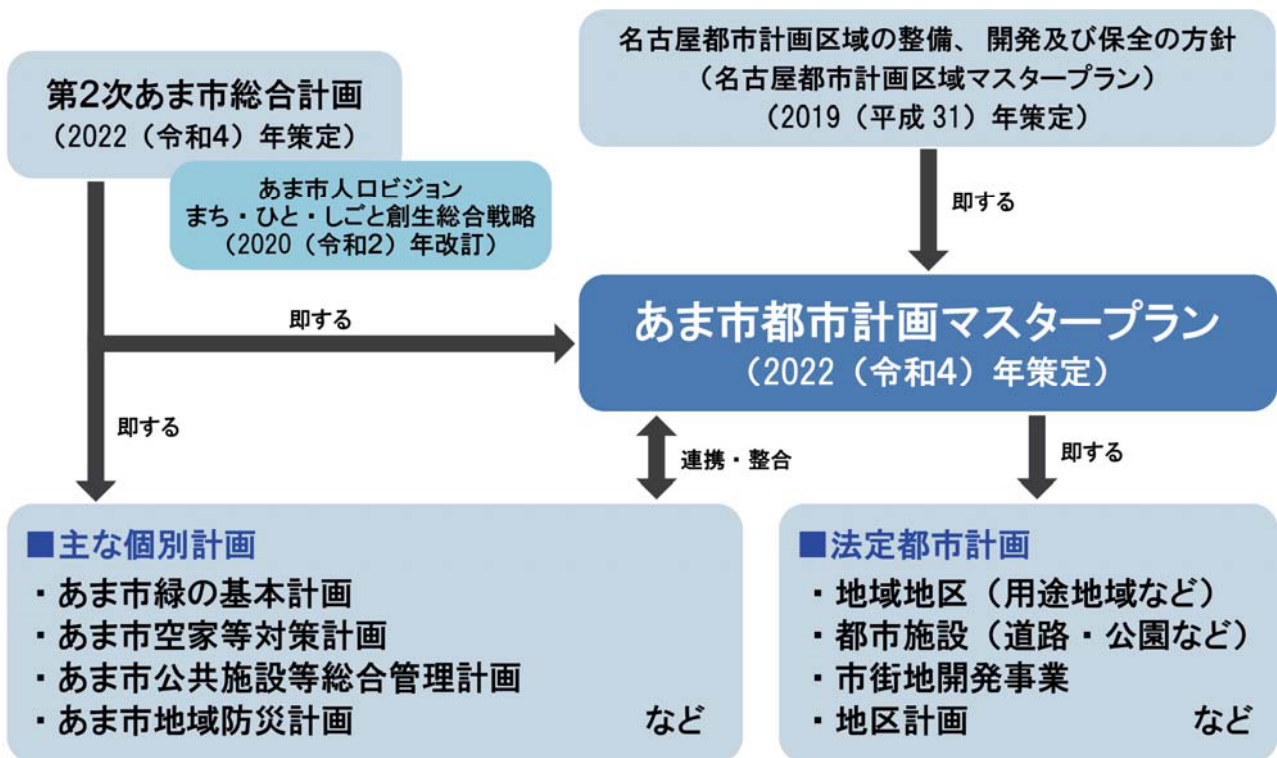


○持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001（平成13）年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015（平成27）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030（令和12）年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

○SDGsは17のゴール・169のターゲットから構成されています。

(3) 位置づけ

本市の最上位計画である「第2次あま市総合計画」や個別計画と本プランの関係は、下図のとおりです。



(4) 役割

本プランが果たす役割は以下のとおりです。

■本市の目指すべき将来像や都市づくり方向性を定める指針

長期的な視点に立ちながら、本市が目指す将来の都市の姿を設定し、持続可能な都市を形成していくための指針とします。

■土地利用や都市施設等の個々の都市計画の方針

今後、本市が進めていく土地利用、道路・公園などの都市施設等の方針を明らかにし、具体的なまちづくりを進める上での方針とします。

■今後の都市計画の決定や変更等の指針

持続可能な都市の形成に向けて、本市が目指す将来の都市の姿を見据えながら、時代に即した都市計画を定める際の指針とします。

■市民・民間事業者・行政等の協働による都市づくりの指針

市民や民間事業者と行政の協働による都市づくりの推進に向けて、地域特性や市民ニーズに応じたまちづくりのルール (地区計画等) づくりに活用します。

2 目標年次と対象区域

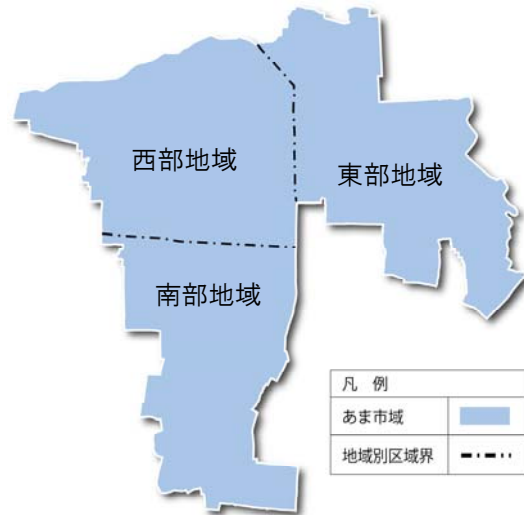
(1) 目標年次

本プランは、基準年次を2022（令和4）年とし、都市の将来像を見据えた上で、目標年次を2032（令和14）年とします。

また、社会経済情勢の変化や総合計画等との整合を図りながら、持続的な都市づくりを進めるため、概ね5年後の2027（令和9）年を中間年次とし、必要に応じてプランの見直し・検証を行います。

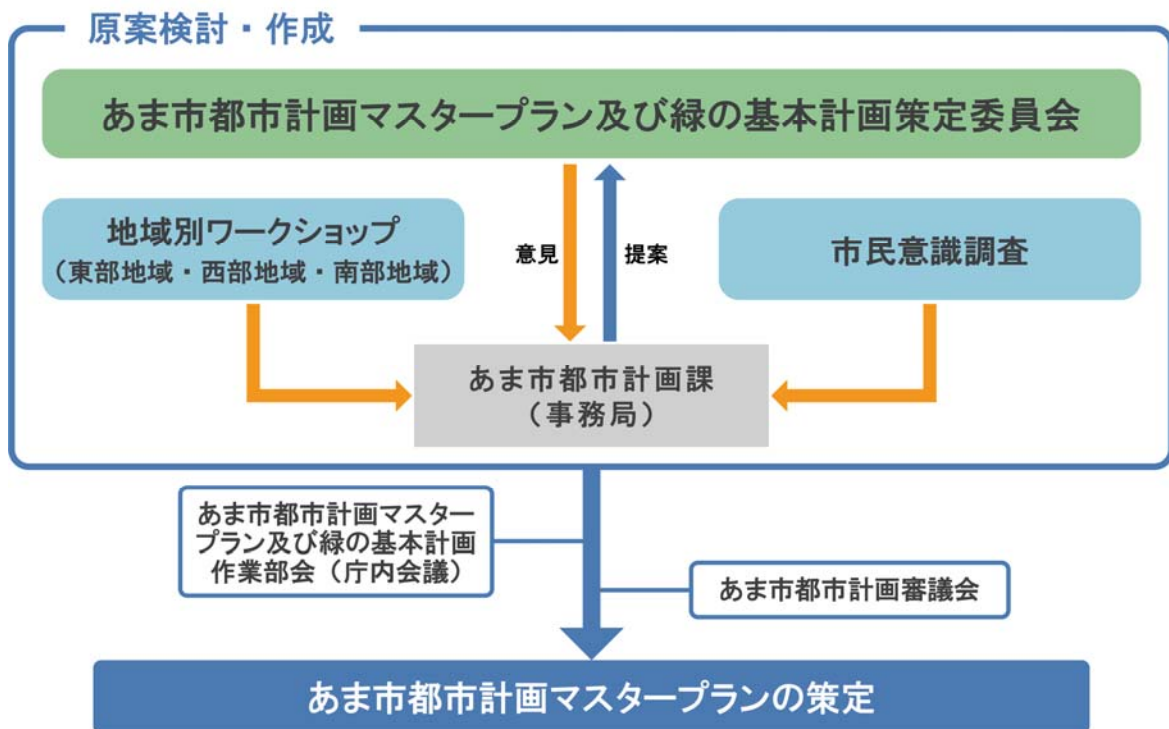
(2) 対象区域

本プランの対象区域は、本市全域（都市計画区域）約2,749haを計画対象区域とします。また、本プランの推進にあたっては、本市のみならず、隣接市町も含めた広域的な交流・連携についても考慮します。



3 策定体制

本プランの策定にあたっては、市民や地元関係団体等から構成される「あま市都市計画マスタープラン及び緑の基本計画策定委員会」、地域別ワークショップ、市民意識調査を通して、市民の意見を十分に反映しつつ策定します。



第2章

あま市のこれまでの都市づくり

1 位置・成り立ち

(1) 広域的成り立ち

本市は愛知県の西部に位置しており、周辺を名古屋市、清須市、稲沢市、愛西市、津島市、大治町、蟹江町の5市2町と隣接しています。市域は東西約7.9km、南北約7.8kmで面積は約2,749haとなっています。

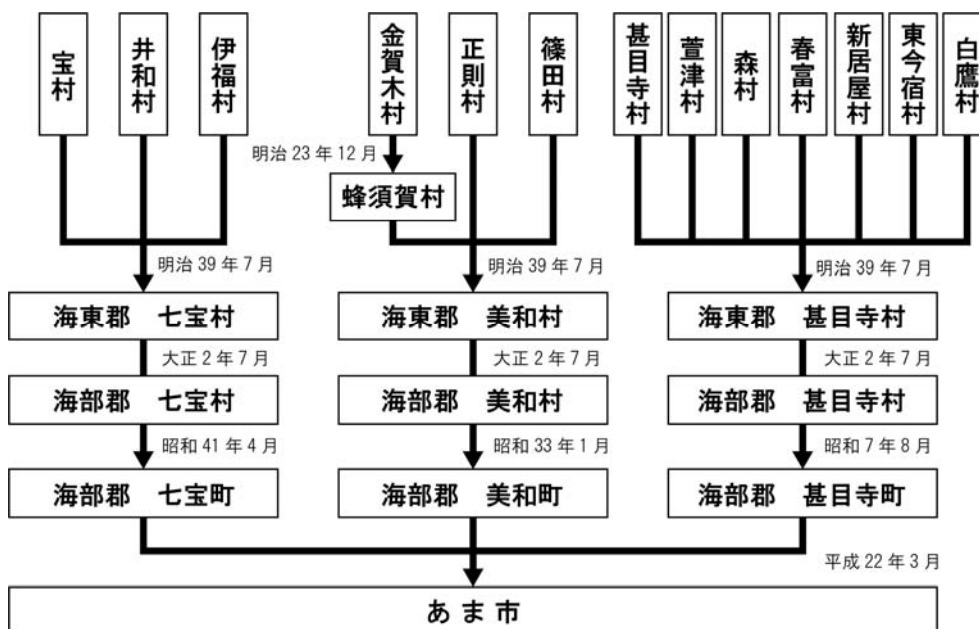
また、本市は一級河川の庄内川を挟んで名古屋市と隣接しており、名古屋市中心部から公共交通機関で約15分という立地条件であることから、近年では名古屋市のベッドタウンとしても発展しています。



■ 広域的な位置

(2) 沿革

本市は、平成の大合併が全国各地で進む中、海部東部地域においても 2002(平成 14)年から市町村合併についての議論が進み、2010(平成 22)年 3 月 22 日に旧七宝町、旧美和町及び旧甚目寺町の 3 町が合併し、県内で 37 番目の市として本市が誕生しました。

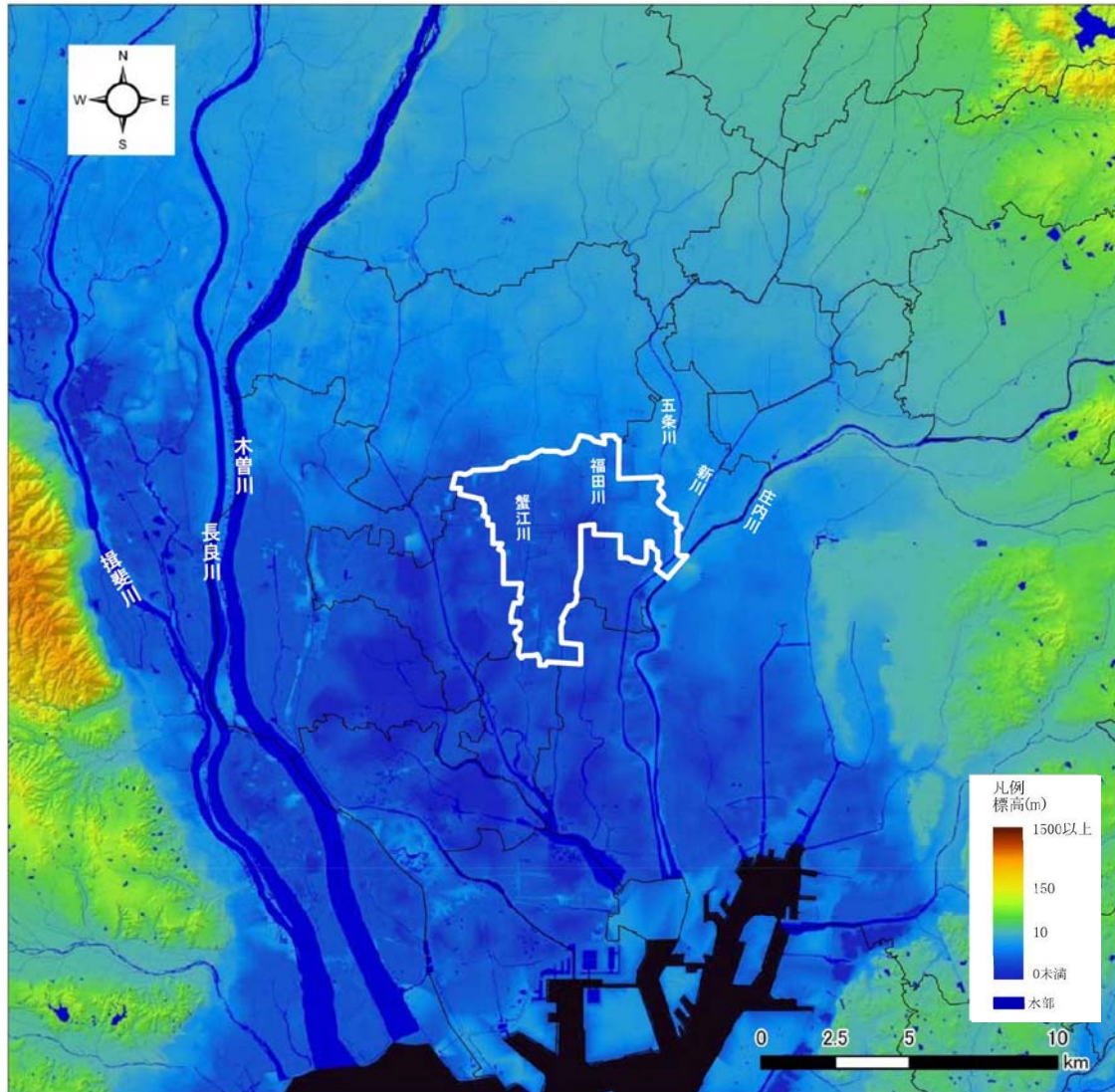


■本市の沿革

(3) 地形

本市の地形は、ほぼ全域が海拔ゼロメートル以下となっており、平坦な地形の中で庄内川、新川、五条川、福田川、蟹江川など多くの河川が南北に流れ、伊勢湾に注いでいます。

■あま市周辺の地形



資料：国土地理院 デジタル標高地形図【愛知県】技術資料番号：D1-No. 965

2 都市の現況の調査分析

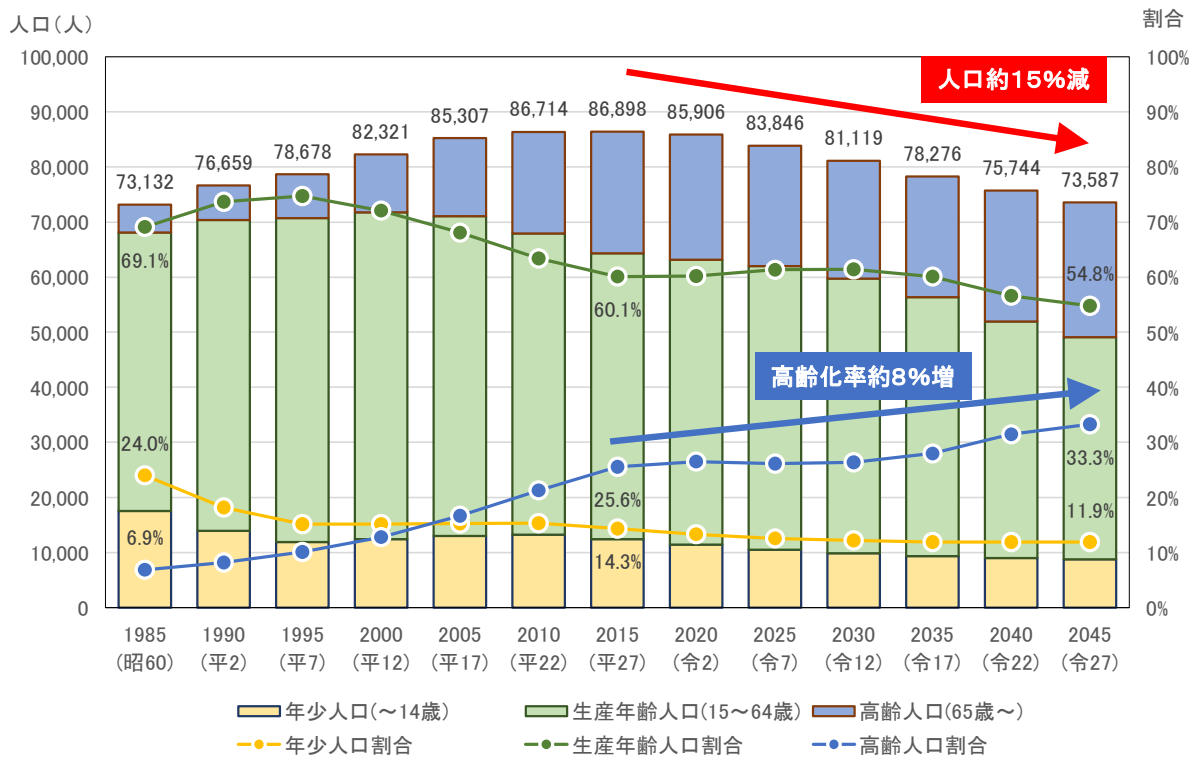
(1) 人口及び世帯数

①人口推移

本市の人口は、2015（平成 27）年まで増加傾向にあり、ピーク時人口は 86,898 人となりました。しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2015（平成 27）年以降は徐々に減少に転じ、2045（令和 27）年には約 73,600 人とピーク時と比べて約 15%減少すると予想されています。

また、高齢化率は年々増加傾向にあり、2015（平成 27）年時点では約 26%、2045（令和 27）年には約 33%（推計値）まで上昇すると予想されています。

■人口推移・将来人口



資料：2015（平成 27）年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018（平成 30）年推計）」

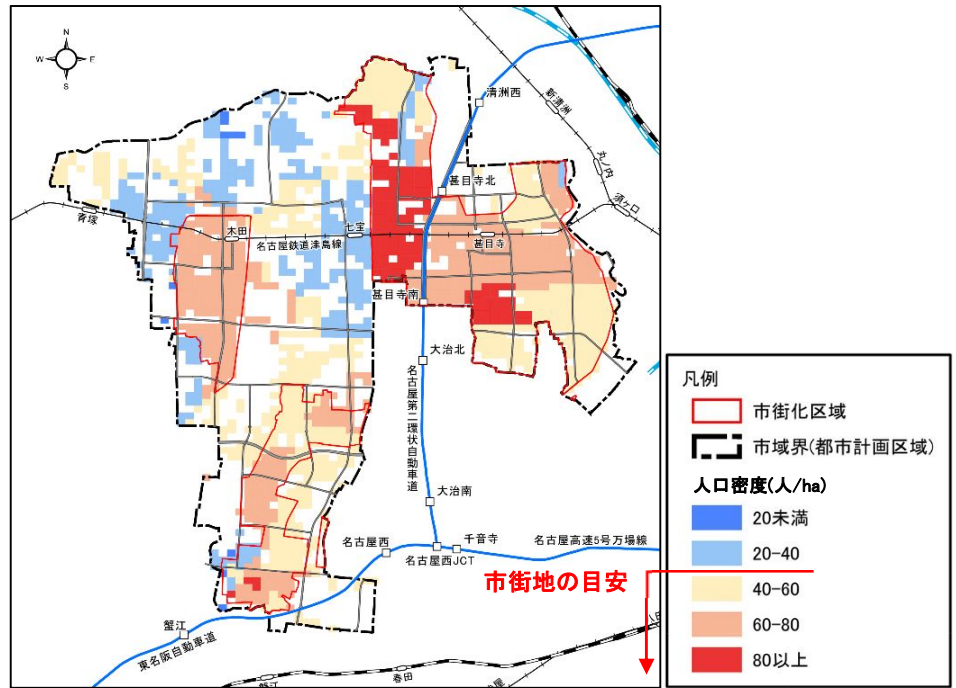
②人口分布

本市の人口密度は、2015（平成 27）年では一部地区を除いた市街化区域内において、市街地の目安となる 40 人/ha を上回るエリアが広がっています。

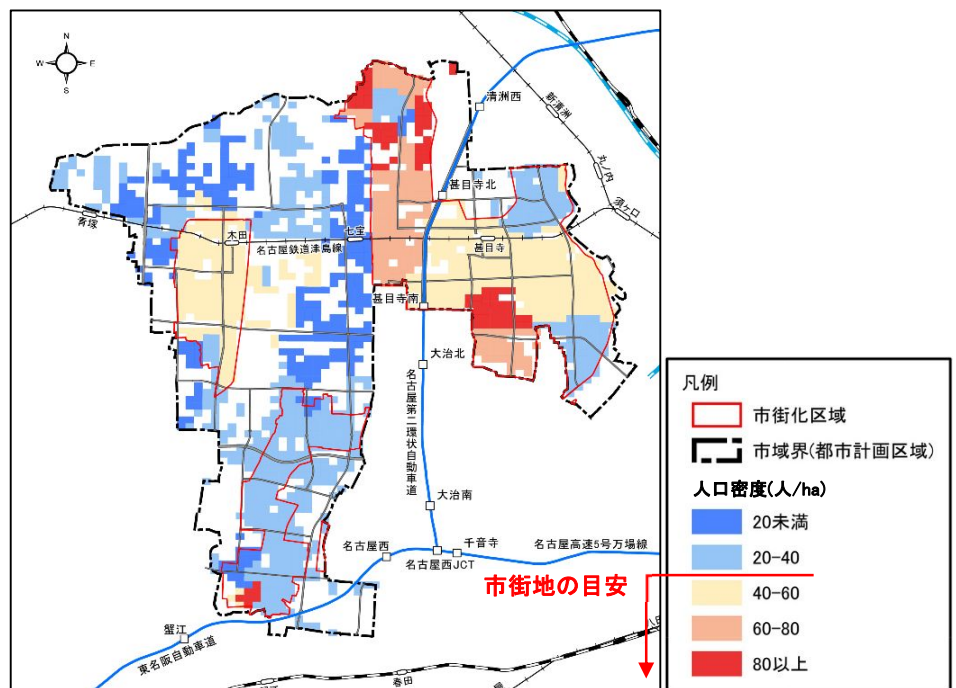
しかしながら、2045（令和 27）年の推計では、市街化区域の内、旧七宝町のほぼ全域及び旧甚目寺町の一部エリアで 40 人/ha を下回ることが予測されます。

■人口密度の将来予測

【2015（平成 27）年人口密度】



【2045（令和 27）年人口密度】

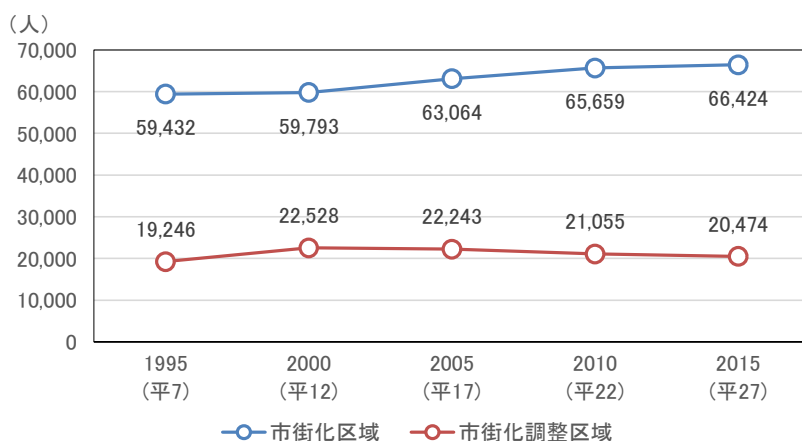


資料：「将来人口・世帯予測ツール V2」（国土交通省 国土技術政策総合研究所）

③市街化区域・市街化調整区域の人口推移

1995（平成7）年以降の人口推移をみると、市街化区域内の人口は約7,000人、市街化調整区域の人口は約1,200人増加しています。

■市街化区域・市街化調整区域別の人口推移

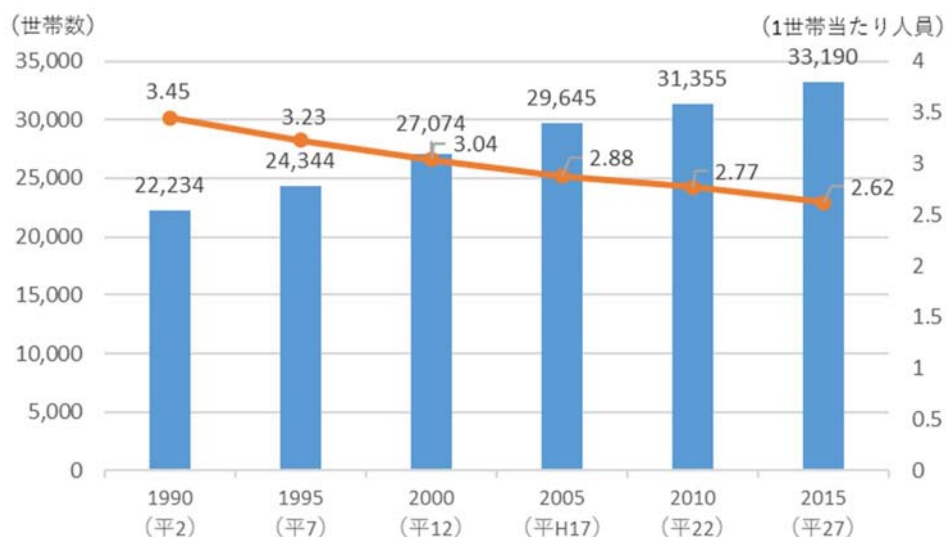


資料：2016（平成28）年都市計画基礎調査

④世帯数の推移

世帯数は一貫して増加しています。一方、1世帯当たり的人员は減少しています。

■世帯数及び1世帯当たり人員の推移



資料：2015（平成27）年国勢調査

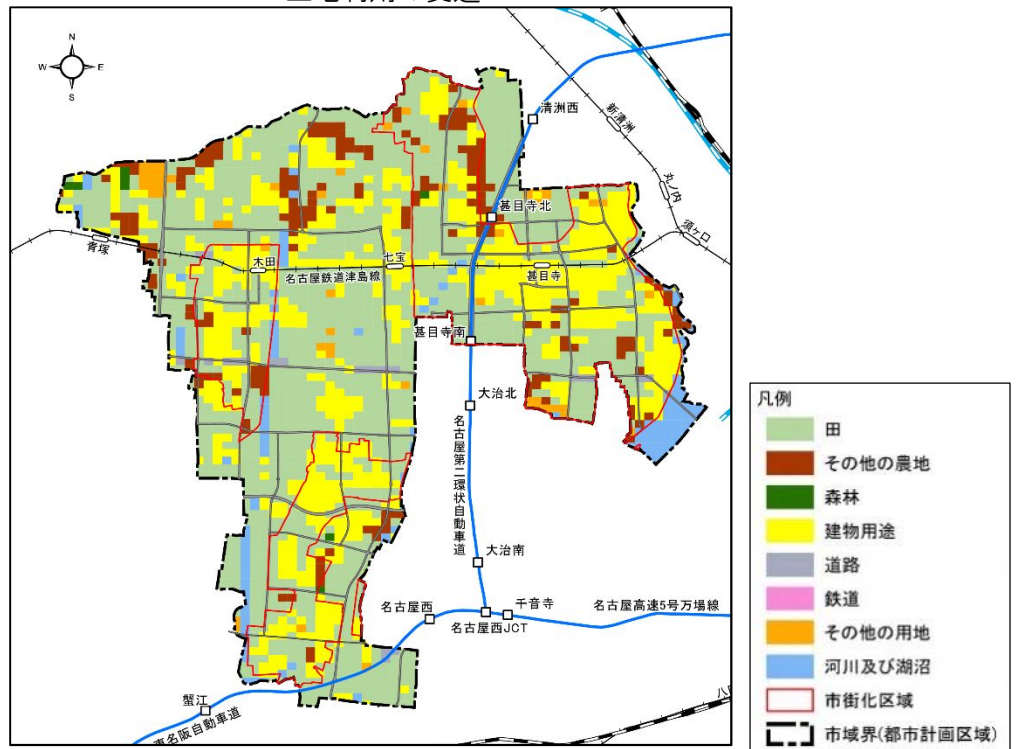
(2) 土地利用

①土地利用の変遷

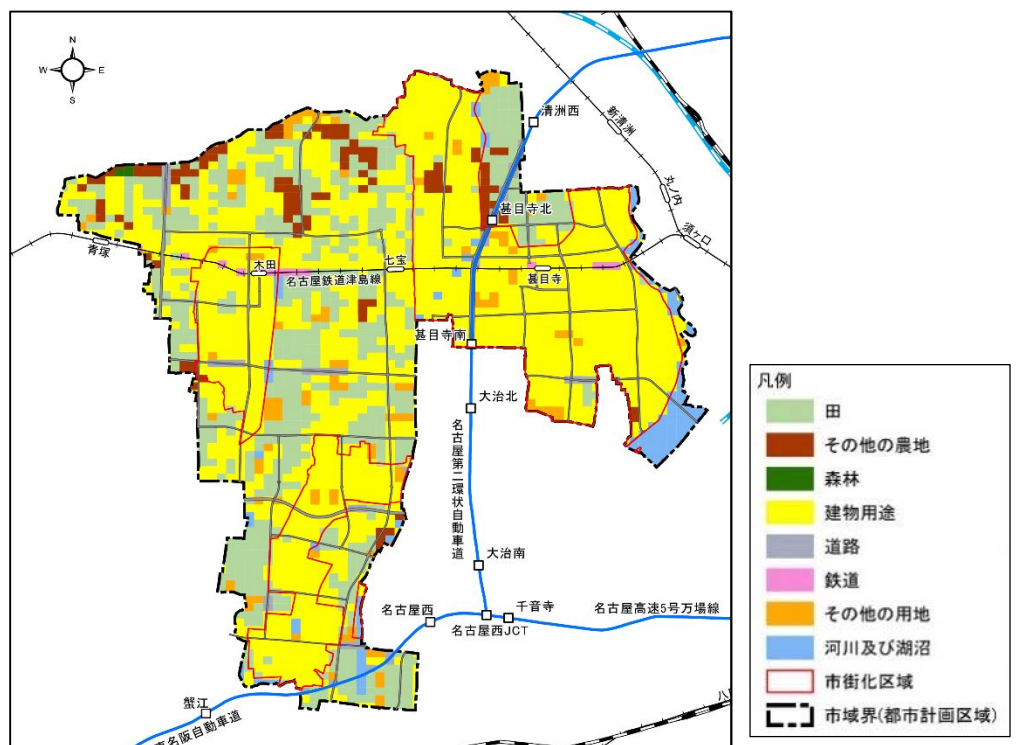
本市の土地利用については、1976（昭和 51）年から 2016（平成 28）年までの 40 年間で、市街化区域の内外に係わらず「田」から「建物用途」に変化しています。

■土地利用の変遷

【1976（昭和 51）年】



【2016（平成 28）年】



資料：国土数値情報「土地利用細分メッシュ」

②土地利用の現況

本市の土地利用分類別の面積は、住宅用地が全体の約 41%、商業用地が約 5%、工業用地が約 7%、農地（田、畑の合計）が約 14%を占めています。

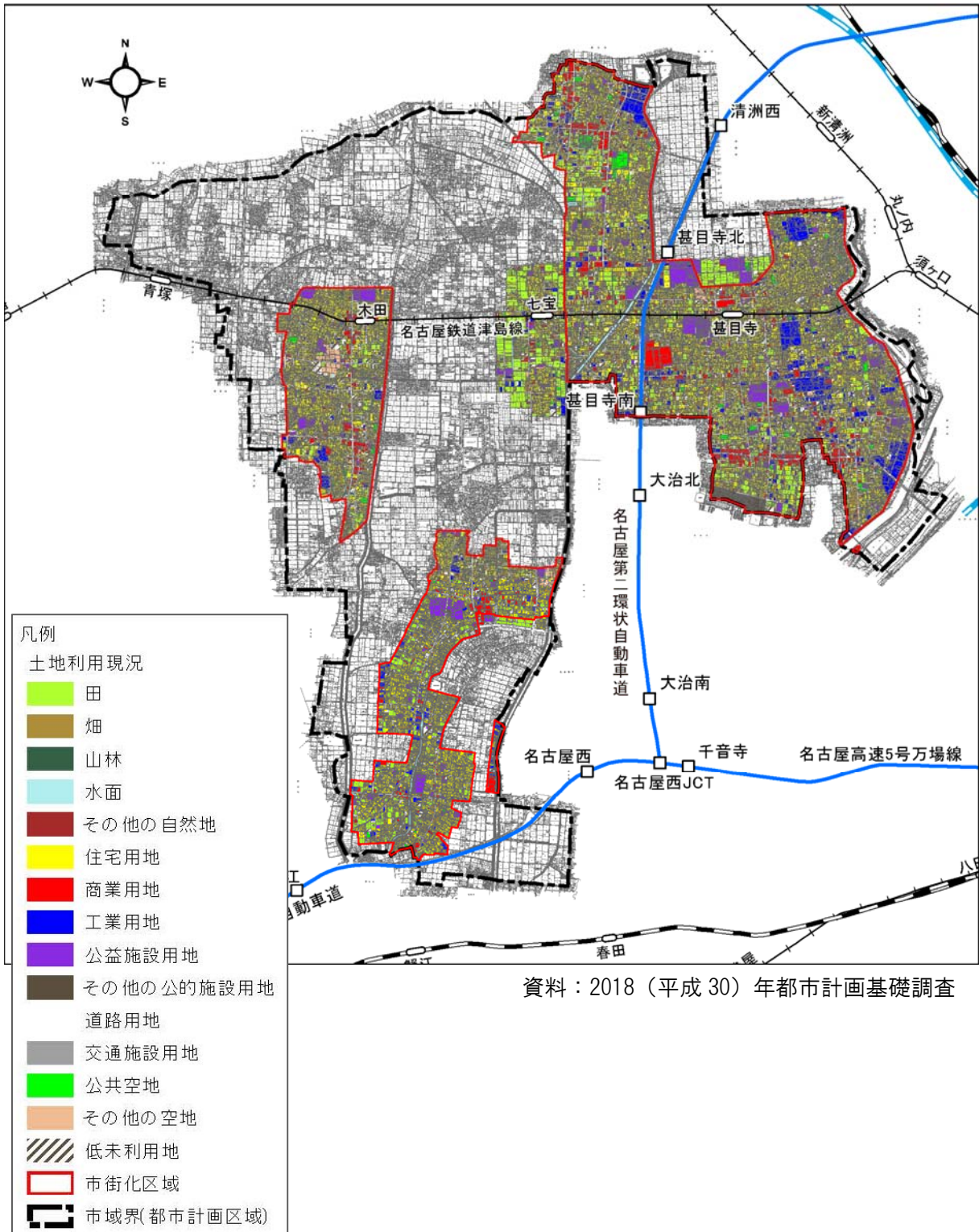
また、低未利用地も市街地全体に一様に分布しており、全体の約 6%を占めています。

■土地利用分類別の面積

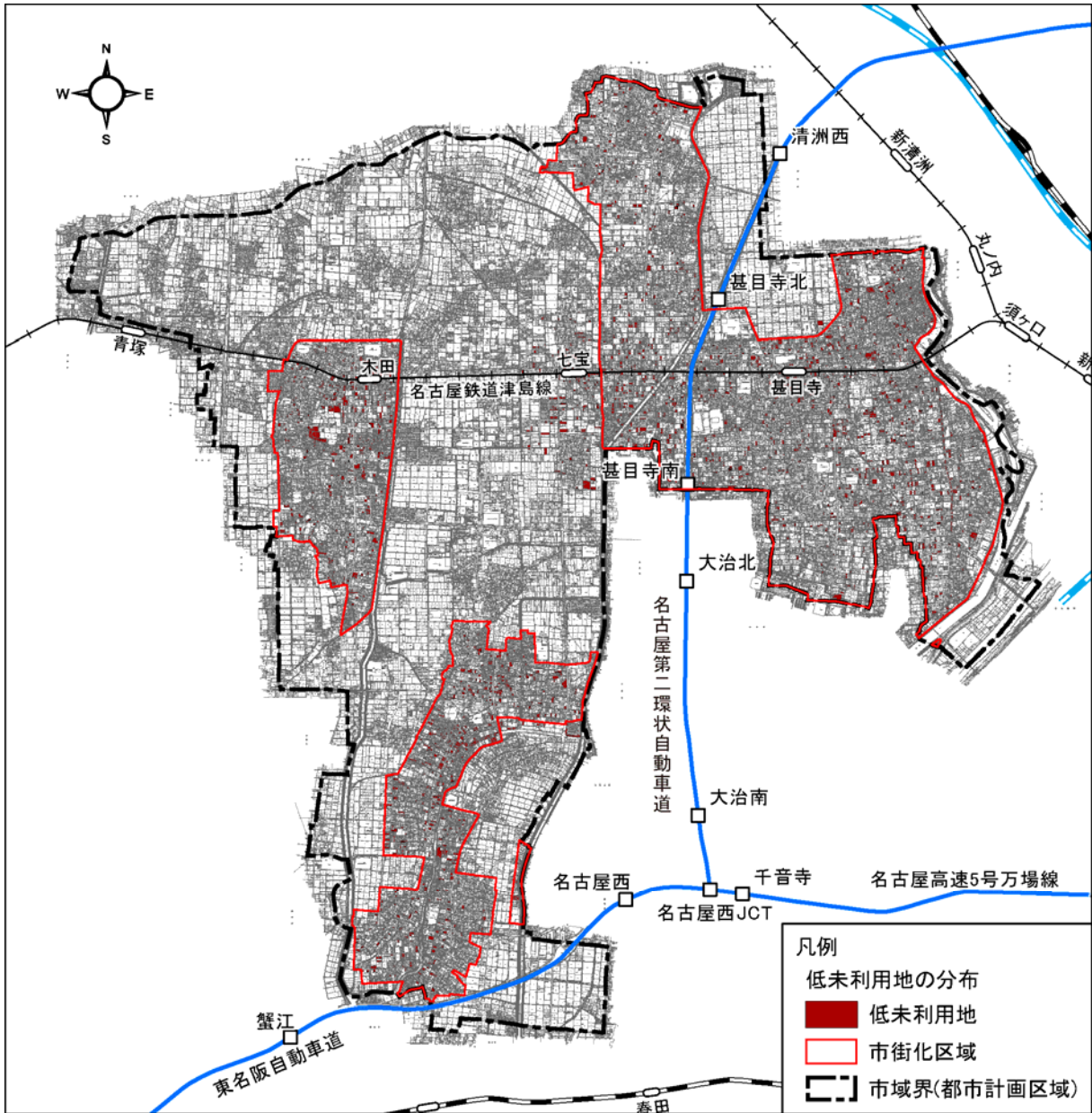
			面積			割合		
			市街化 区域 (ha)	市街化 想定区域 (ha)	合計 (ha)	市街化 区域 (ha)	市街化 想定区域 (ha)	合計 (ha)
自然的 土地利用	農地	田	66.26	36.84	103.10	5.8%	33.5%	8.2%
		畑	66.01	7.33	73.34	5.7%	6.7%	5.8%
	山林		0.48	0.04	0.52	0.0%	0.0%	0.0%
	水面		23.76	3.52	27.28	2.1%	3.2%	2.2%
	その他の自然地		18.84	2.80	21.64	1.6%	2.5%	1.7%
都市的 土地利用	住宅用地		492.27	24.36	516.63	42.8%	22.1%	41.0%
	商業 用地		61.55	2.12	63.67	5.4%	1.9%	5.1%
		1 ha以上の 商業施設用地	7.31	0.00	7.31	0.6%	0.0%	0.6%
	工業 用地		78.66	4.40	83.06	6.8%	4.0%	6.6%
		工業専用 地域面積	0.00	0.00	0.00	0.0%	0.0%	0.0%
	公的・公益用地		66.59	7.75	74.34	5.8%	7.0%	5.9%
	道路用地		184.28	13.59	197.87	16.0%	12.4%	15.7%
	交通施設用地		4.20	0.61	4.81	0.4%	0.6%	0.4%
	公共空地		13.89	0.84	14.73	1.2%	0.8%	1.2%
	その他の空地		6.45	0.33	6.78	0.6%	0.3%	0.5%
低未利用地		66.06	5.48	71.54	5.7%	5.0%	5.7%	
総計			1,149.30	110.01	1,259.31	100.0%	100.0%	100.0%
可住地			830.43	80.90	911.33	72.3%	73.5%	72.4%
非可住地			318.87	29.11	347.98	27.7%	26.5%	27.6%

資料：2018（平成 30）年都市計画基礎調査

■土地利用の現況



■低未利用地の分布



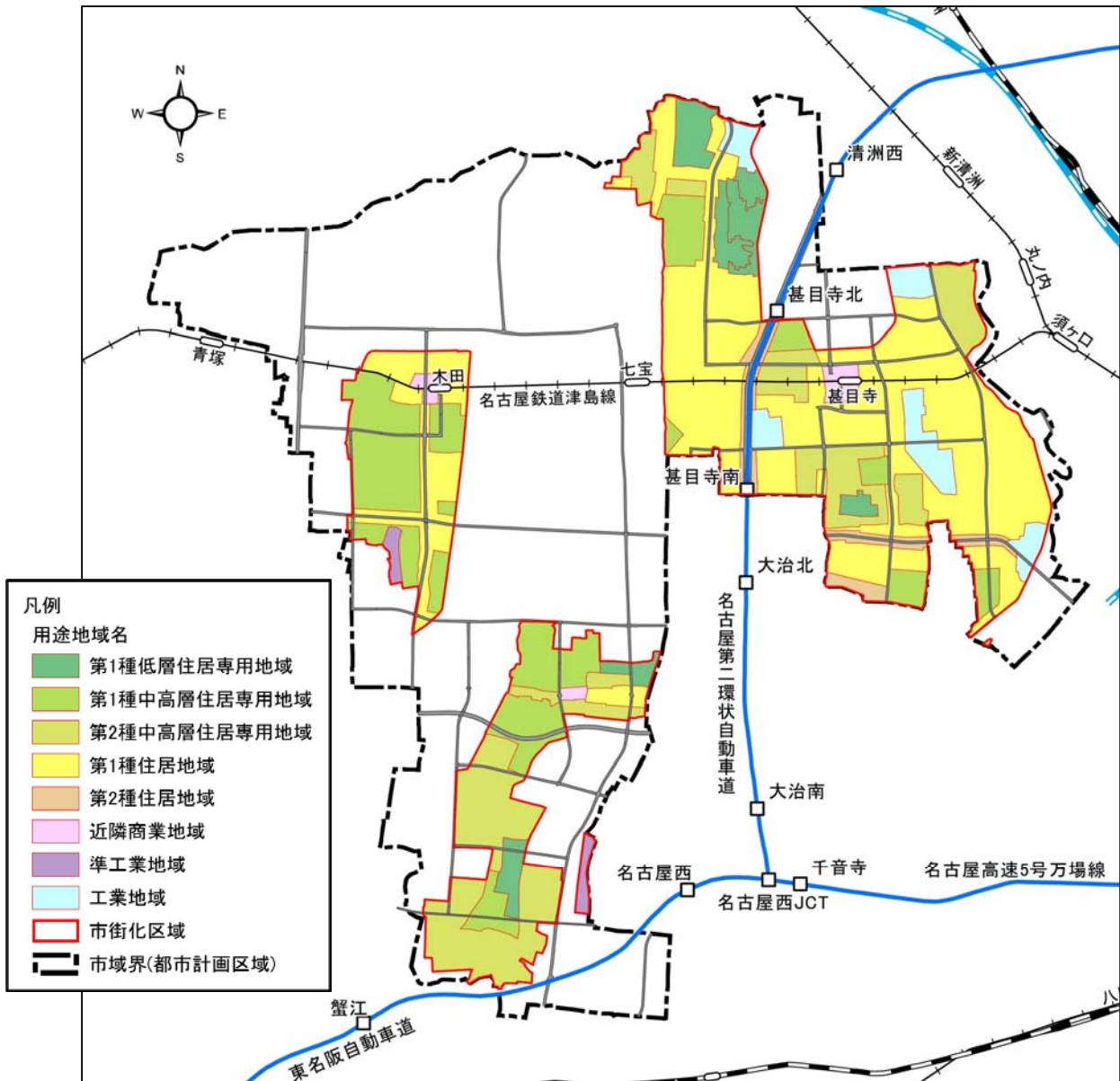
資料：2018（平成30）年都市計画基礎調査

②用途地域指定状況

本市の市街化区域の面積は 1,150ha（市域の約 42%）となっており、大部分が住宅系の用途に指定されています。

この他、甚目寺駅周辺及び木田駅周辺で近隣商業地域、旧美和町エリア及び旧七宝町エリアの一部地区が準工業地域、旧甚目寺町エリアの名古屋第二環状自動車道の沿道の一部地区が工業地域に指定されています。

■用途地域指定状況



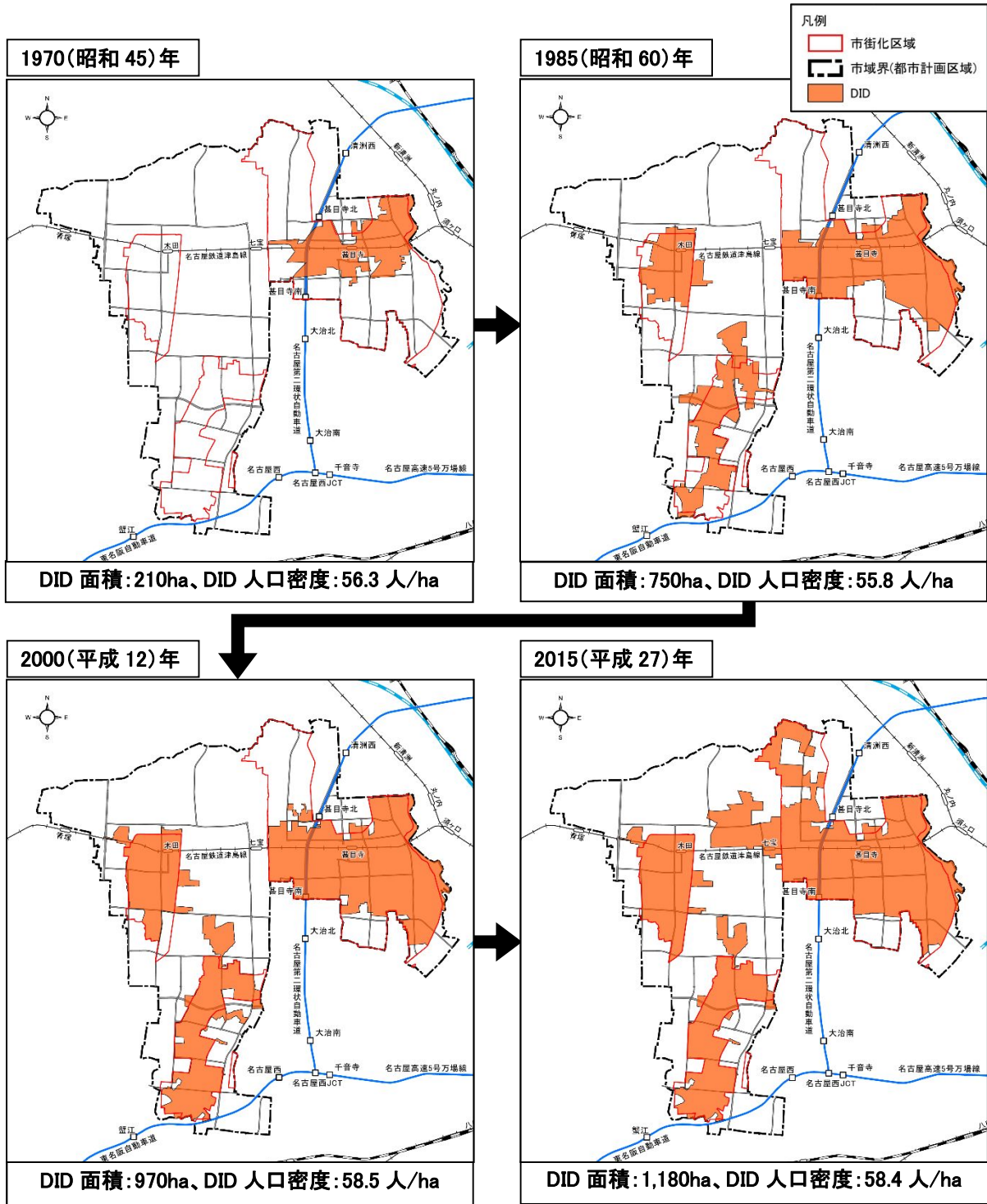
資料：あま市都市計画データファイル「用途地域」

③人口集中地区 (DID)

本市の人口集中地区 (DID) は、1970 (昭和 45) 年から 2015 (平成 27) 年までの 45 年間で 6 倍近く拡大しています。

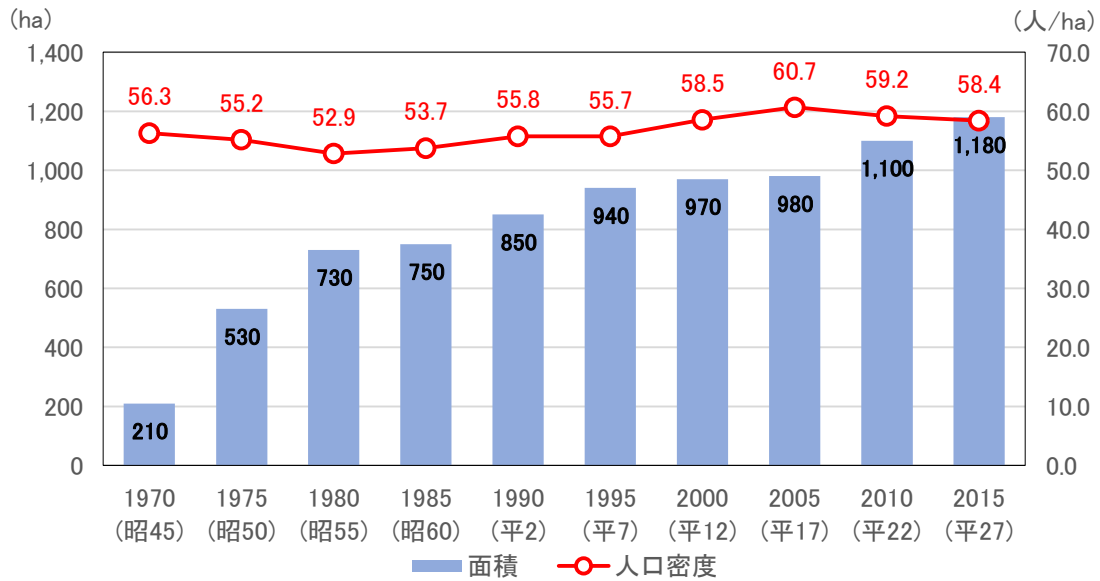
また、DID の人口密度は、55 人/ha 前後でほぼ横ばいの状態が続いています。

■人口集中地区の変遷 (市街化区域 (用途地域) は最新の区域にて表示)



資料：国土数値情報「人口集中地区データ」

■人口集中地区の面積及び人口密度の推移

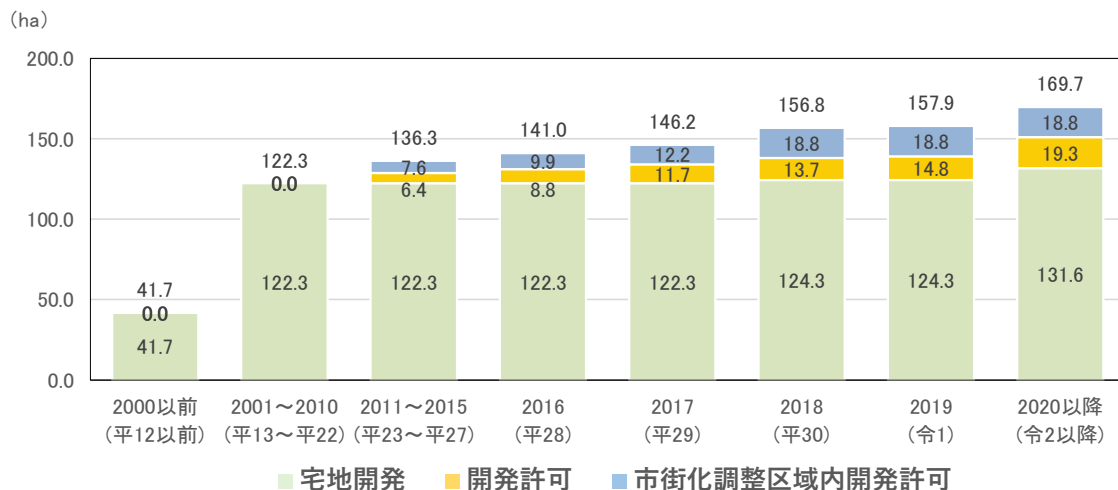


資料：2015（平成27）年国勢調査

④開発動向

本市の市街化区域内における面的な整備面積は、用途区域面積の約13%にあたる約151haとなっています。2001（平成13）年以降は宅地開発（土地区画整理事業）に大きな動きはなく、民間の開発行為等のみで開発面積が増加しています。

■面的整備の動向



※宅地開発は完了年度の面積

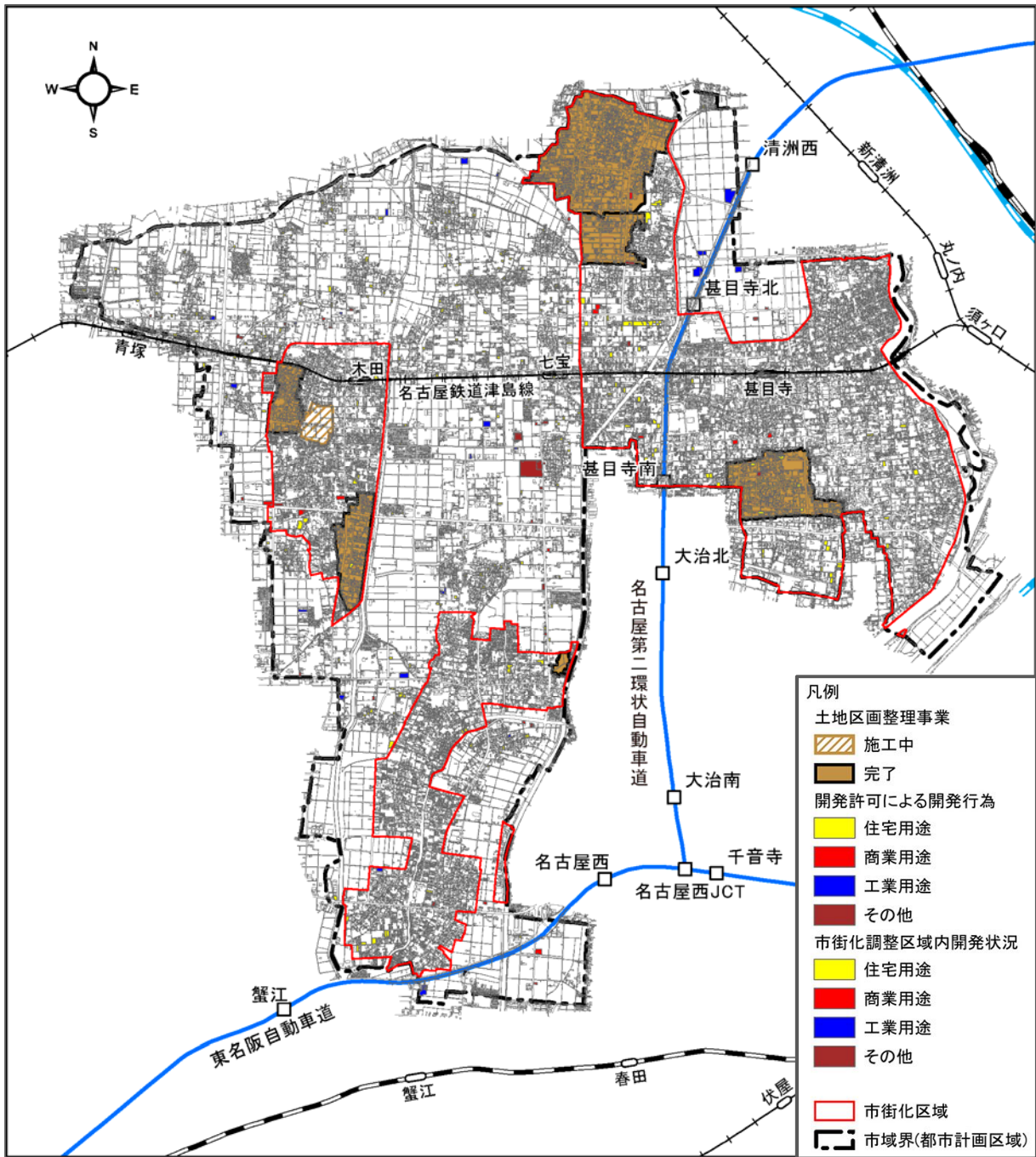
※開発許可は工事完了公告年度面積

※市街化調整区域内開発状況は許可年度面積

※完了年度が空欄の開発行為については、2021年度以降の完了として計上

資料：2019（平成31/令和元）年都市計画基礎調査

■面積整備区域

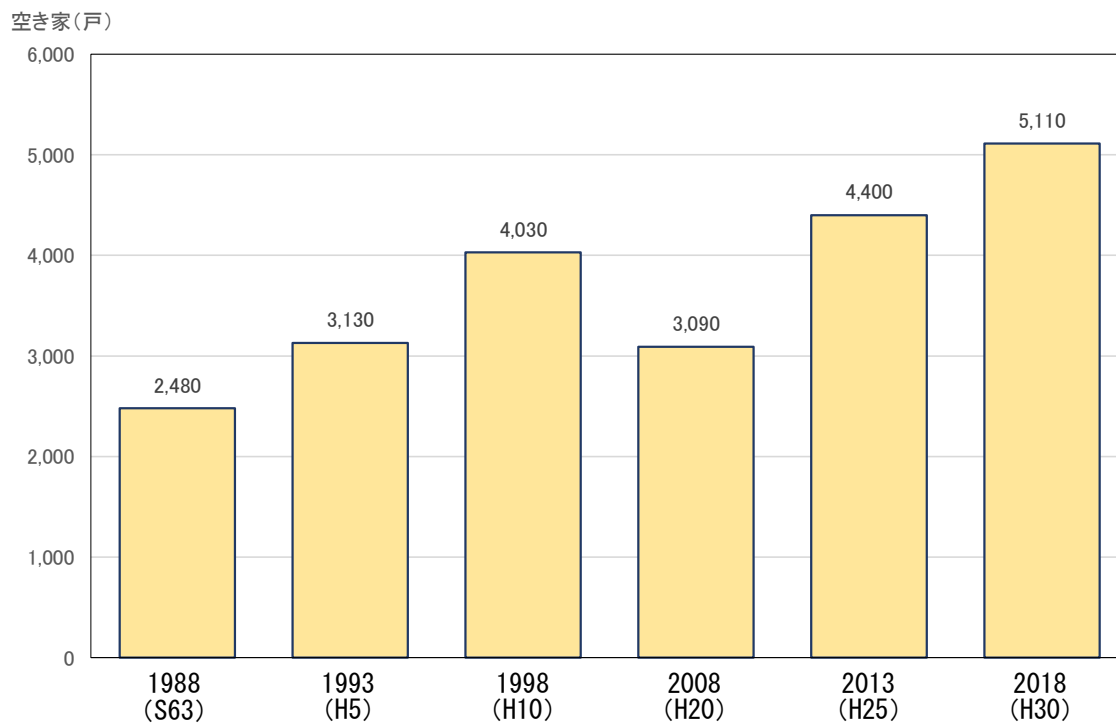


資料：2019（平成 31/令和元）年都市計画基礎調査

⑤空き家の動向

本市の空き家の戸数は1988（昭和63）年以降増加傾向にあり、1988（昭和63）年から2018（平成30）年までの30年間で2倍近く拡大しています。

■ 空き家戸数の推移



資料：住宅・土地統計調査

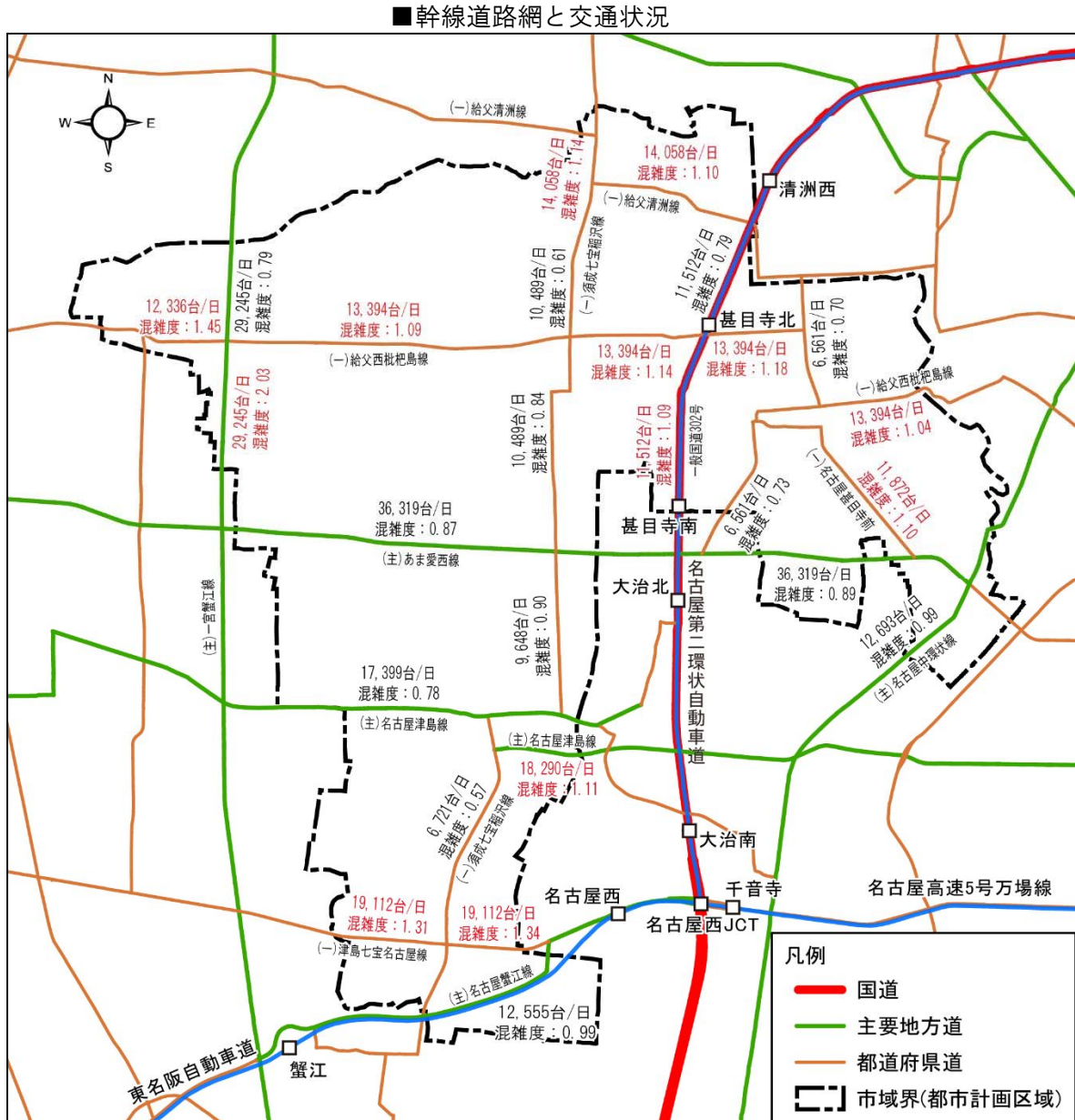
(3) 都市基盤

① 幹線道路網

本市の幹線道路網は、東西方向の(一)給父清洲線、(一)給父西枇杷島線、(主)あま愛西線、(主)名古屋津島線、(一)津島七宝名古屋線、(主)名古屋蟹江線、南北方向の一般国道302号、(一)須成七宝稲沢線、(主)一宮蟹江線により構成されています。

交通量が1万台/日前後の区間が多い中、(主)あま愛西線及び(主)一宮蟹江線は特に交通量が多くなっています。

また、一般国道302号、(主)一宮蟹江線等、混雑度が1.0を超える区間もみられます。



注：赤字は混雑度が1.0を超える区間を示す。

※：(主)は主要地方道、(一)は一般県道を示す。

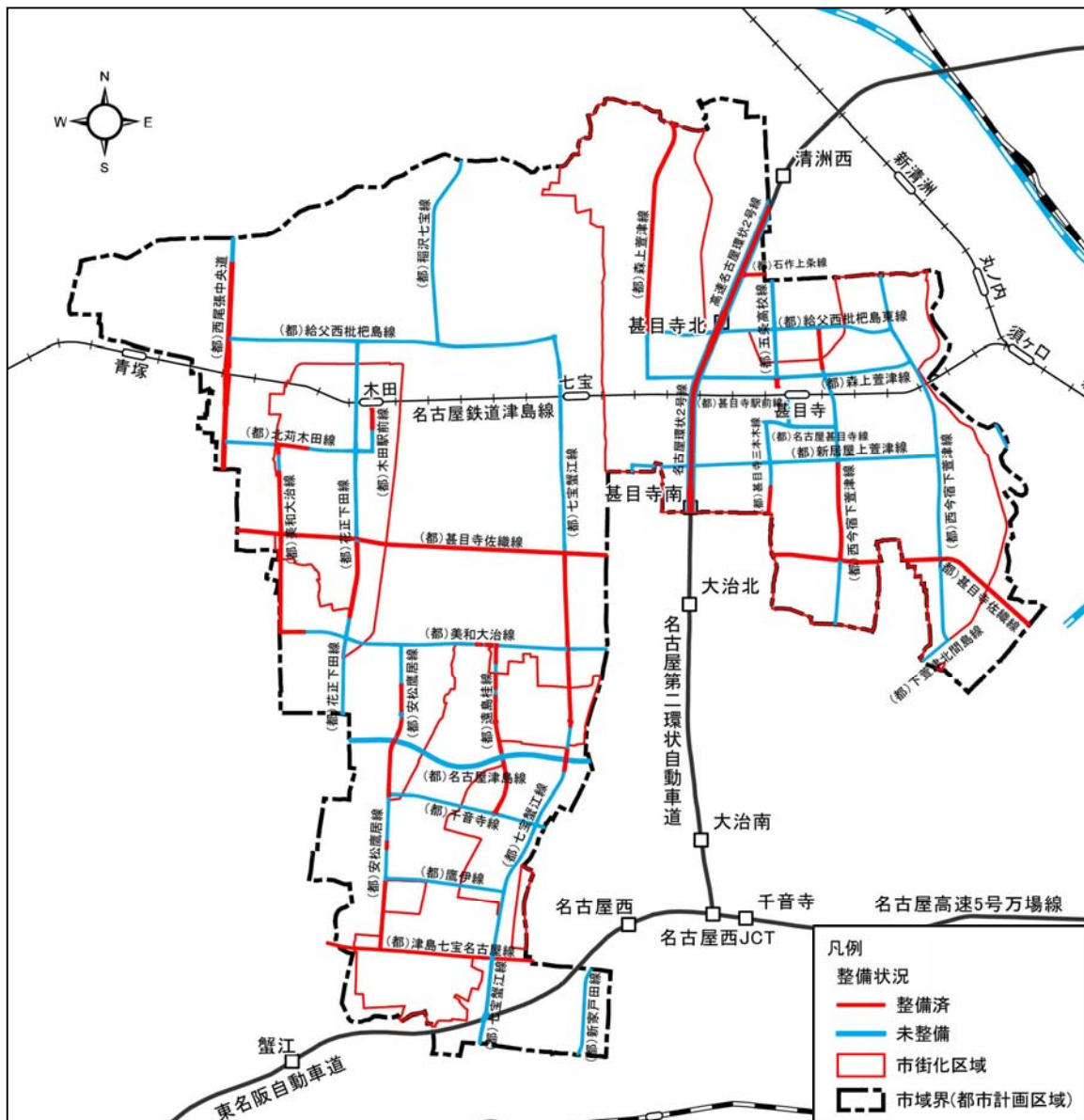
資料：2015（平成27）年道路交通センサス

②都市計画道路整備状況

本市の都市計画道路は30路線、58.13kmが都市計画決定されており、整備済延長は全体の約36%となっています。また、整備率が100%の路線は4路線となります。

■都市計画道路の整備状況

種類	路線数	計画延長 (m)	代表幅員 (m)	整備済延長 (m)	未整備延長 (m)	整備率 (%)
自動車専用道路	1	2.60	—	2.60	0.00	100%
国管理区間	—	2.60	—	2.60	0.00	100%
幹線街路	29	55.53	16-60	18.35	37.18	33%
国管理区間	—	2.60	60	0.00	2.60	0%
県管理区間	—	21.54	16-30	10.46	11.08	49%
市管理区間	—	31.39	16-20	7.89	23.50	25%
合計	30	58.13	—	20.95	37.18	36%



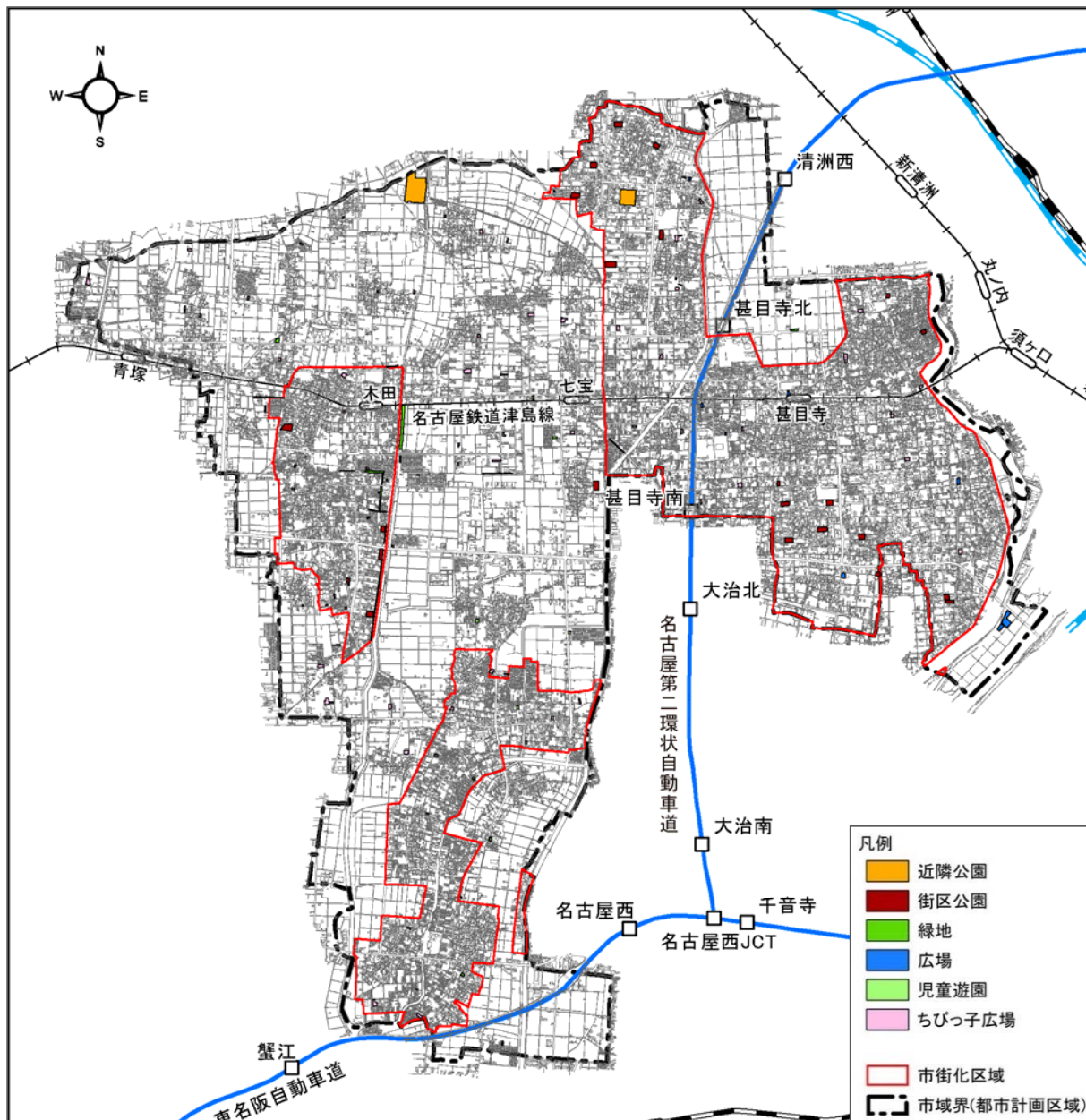
資料：あま市資料

- 幹線街路：都市計画道路の区分の1つで、主要幹線街路、都市幹線街路、補助幹線街路に分類されます。
- 主要幹線街路：都市の拠点間を連絡し、都市内の重要な地域間相互の自動車交通の用に供する道路で、特に高い走行機能と交通処理機能を有します。
- 都市幹線街路：都市内の各地域又は主要な施設相互の交通を集約して処理する道路で、都市の骨格を形成します。
- 補助幹線街路：主要幹線道路又は都市幹線道路で囲まれた区域内において幹線街路を補完し、区域内の交通を効率的に集散させるための補助的な幹線街路です。

③公園緑地

本市には、都市公園が54箇所整備されており、総面積は約13haとなっています。一人当たりの都市公園面積は1.45㎡/人となっており、国の標準値(10.0㎡/人)や愛知県の平均値(7.79㎡/人)を大きく下回っている状況です。

■公園緑地の設置状況

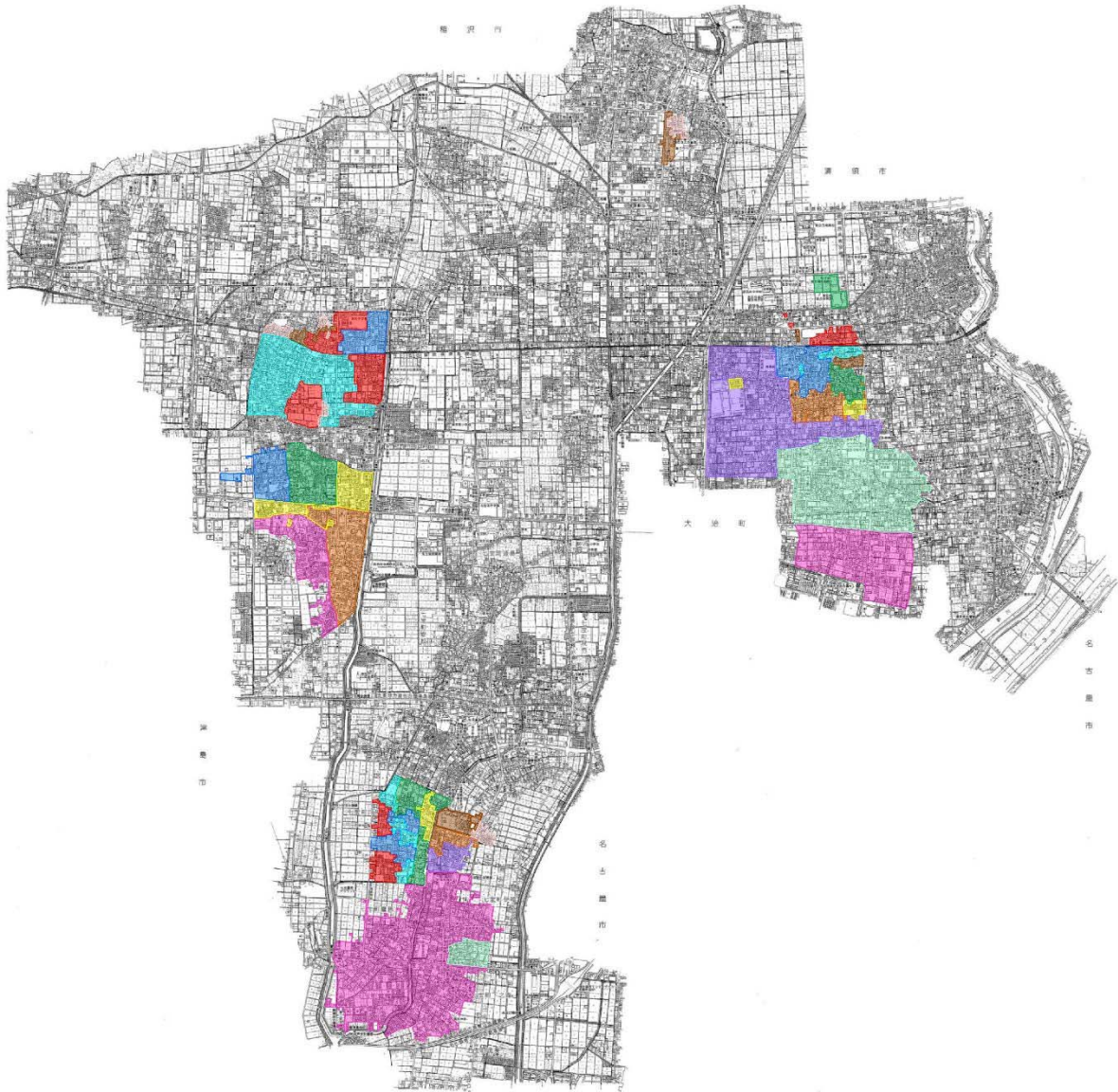


資料：あま市資料












④公共下水道

2002（平成 14）年に愛知県が下水道事業に着手して以降、2019（平成 31/令和元）年末までに 517ha を整備しました。

■公共下水道供用区域図（2020（令和 2）年 4 月 1 日現在）



（注）図の仕様上一部不鮮明な部分があります。詳細については下水道課までお問い合わせください。

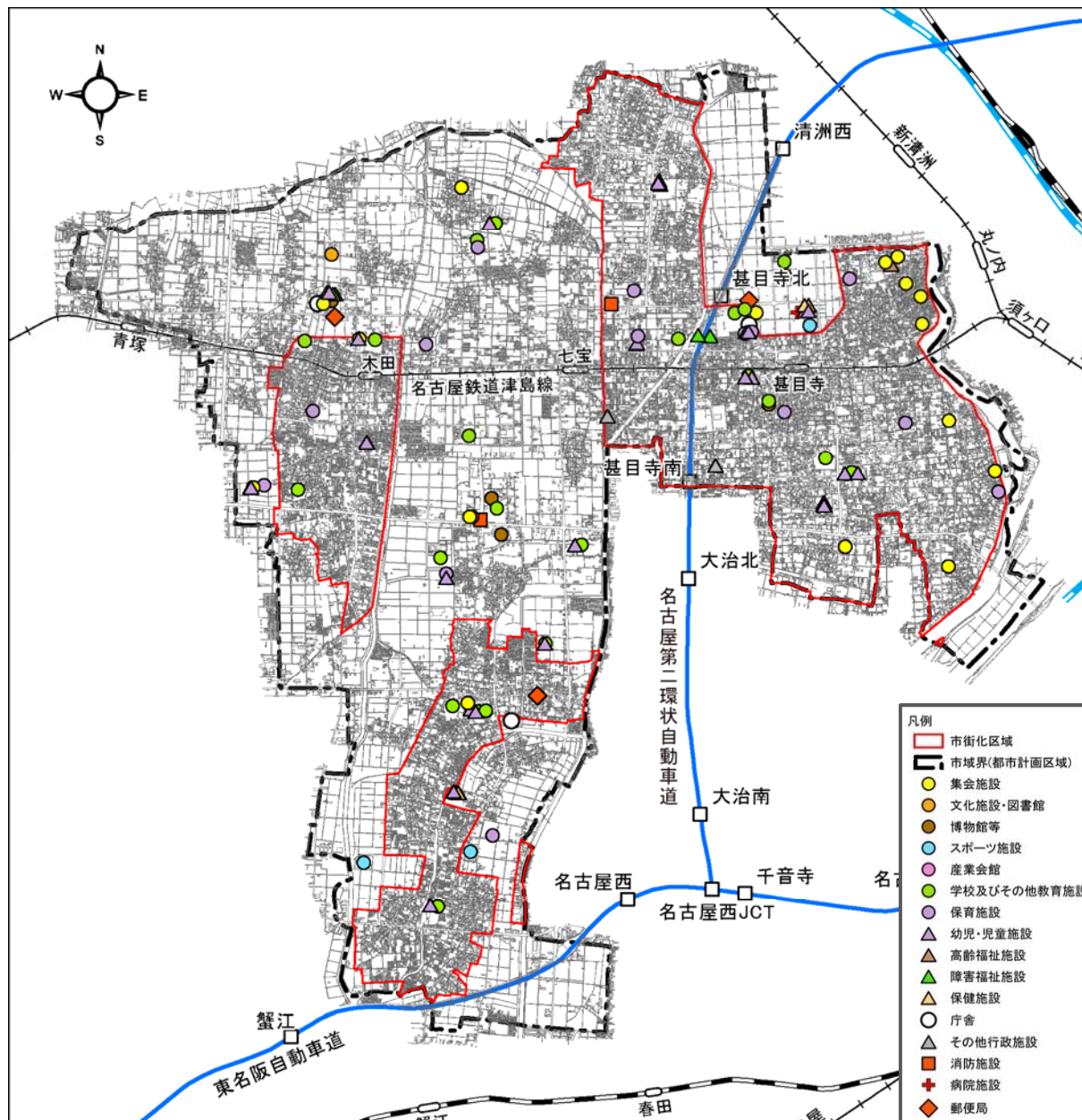
平成 22 年供用開始		平成 27 年供用開始	
平成 23 年供用開始		平成 28 年供用開始	
平成 24 年供用開始		平成 29 年供用開始	
平成 25 年供用開始		平成 30 年供用開始	
平成 26 年供用開始		平成 31 年供用開始	
		令和 2 年供用開始	

資料：あま市資料

⑤公共施設立地状況

本市の公共施設は市街化区域内外に分布しており、特にあま市役所、七宝庁舎、甚目寺庁舎周辺は公共施設が集積しています。

■公共施設の立地状況



資料：「あま市公共施設等総合管理計画 平成 29（2017）年 3 月」をもとに
国土数値情報「公共施設」、「市町村役場等及び公的集会施設」を加工

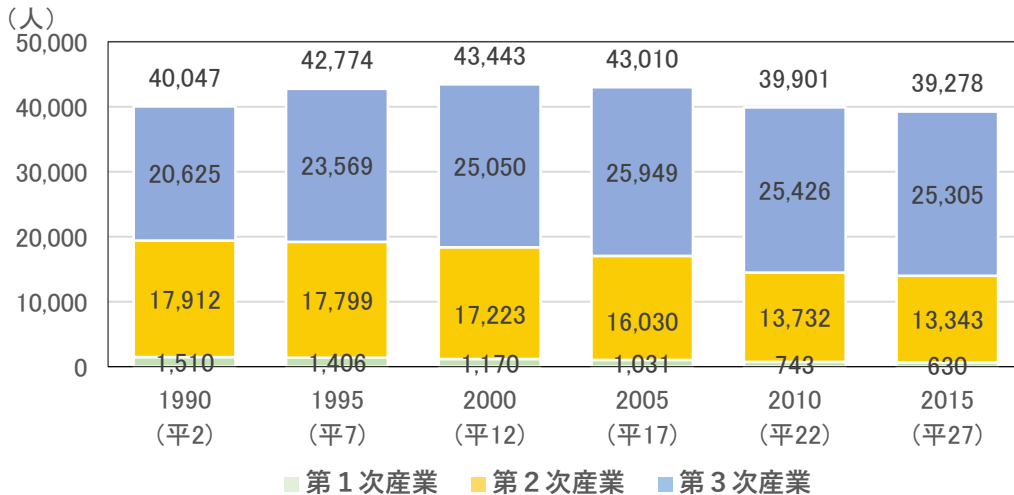
(4) 産業

①産業別就業者割合

本市の就業人口は、2000（平成12）年をピークに減少に転じています。

就業人口の割合は、1990（平成2）年から2015（平成27）年の25年間で、第1次産業（農業など）の就業者数が約58%減少し、第2次産業（製造業、建設業など）の就業者数が約25%減少しているのに対して、第3次産業（卸売業・小売業、宿泊業、サービス業など）の就業者数は約23%増加しています。

■産業別就業人口



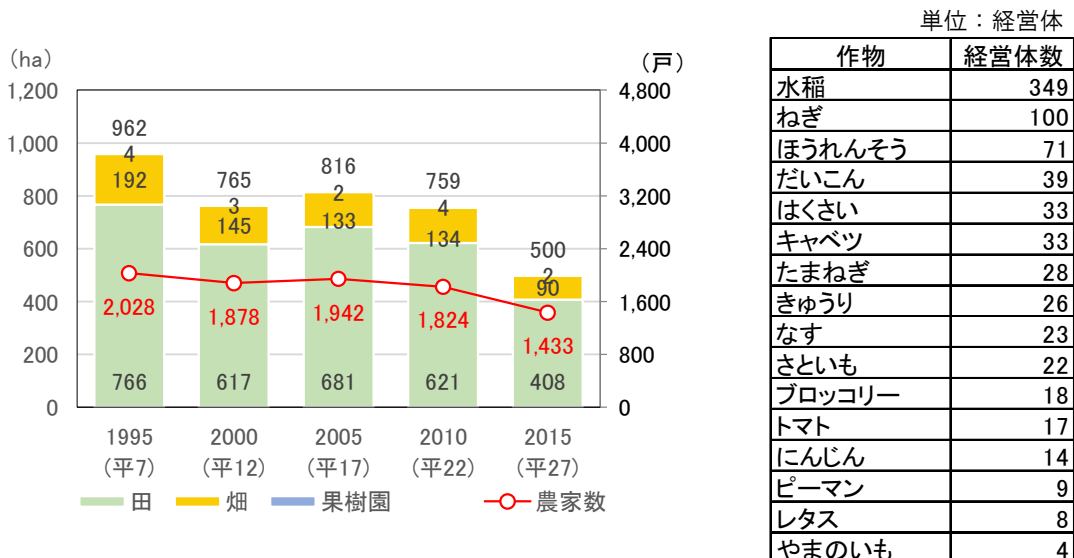
資料：2015（平成27）年国勢調査

②農業

本市の農家数及び耕作地面積は減少が続いており、1995（平成7）年から2015（平成27）年にかけて、農家数は約30%、耕作地面積は約48%減少しています。

また、作物別の経営体数については、「水稻」が大半を占めていますが、「ねぎ」、「ほうれんそう」なども多くみられます。

■経営耕作地面積及び農家数の推移及び販売を目的とした農畜産物の作付経営体数



資料：産業振興課「農林業センサス」あま市の統計 資料：2015（平成27）年農林業センサス

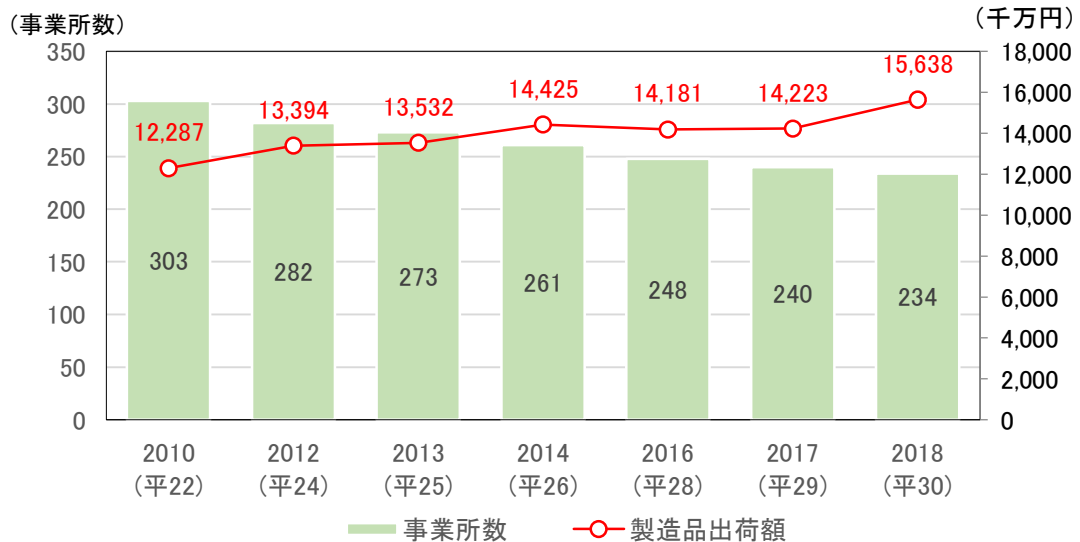
(5) 製造業

①事業所数・製造品出荷額

本市の製造業は、事業所数は減少傾向、製造品出荷額は増加傾向にあります。

2010（平成22）年から2018（平成30）年にかけて事業所数は約23%減少、製造品出荷額等は約27%増加しています。

■製造業事業所数及び製造品出荷額の推移

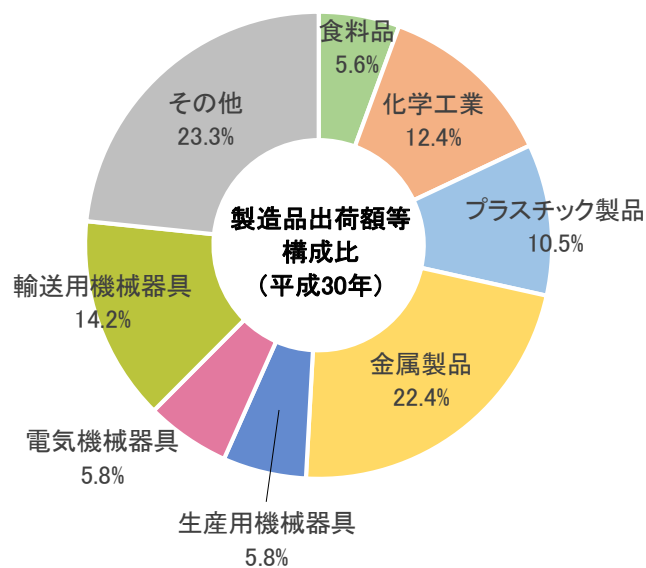


資料：工業統計調査

②製造品出荷額等の内訳

製造品出荷額等の内訳については、金属製品が全体の約22%を占めており、続いて輸送用機械器具が約14%、化学工業が約12%を占めています。

■製造品出荷額等の構成比（2018（平成30）年）

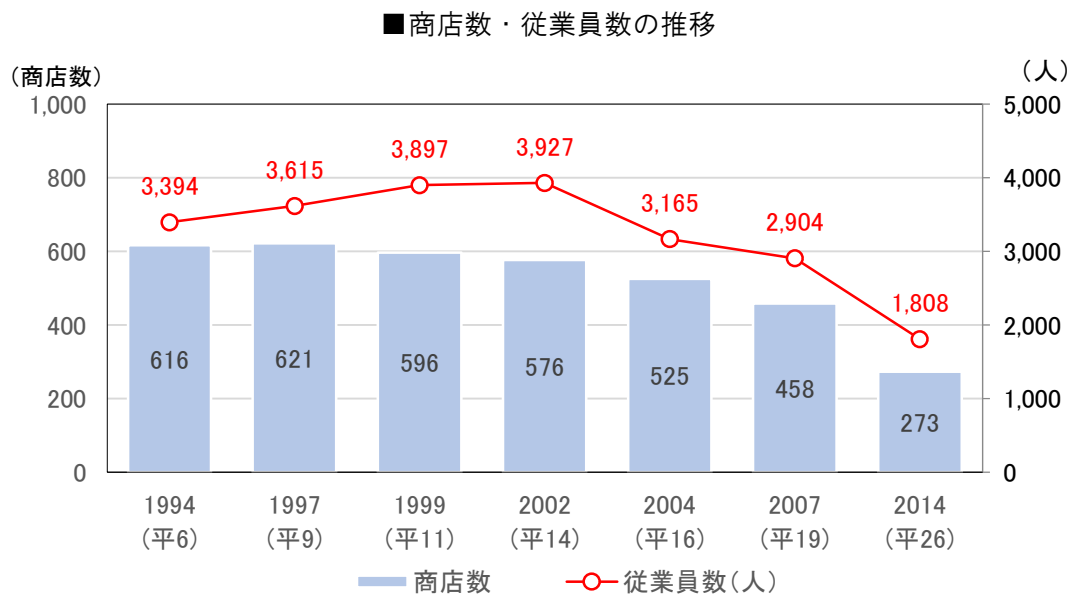


資料：工業統計調査

(6) 商業

① 商店数・従業員数

本市の商業は、商店数・従業員ともに減少傾向にあり、特に2004（平成16）年以降は減少が大きくなっています。



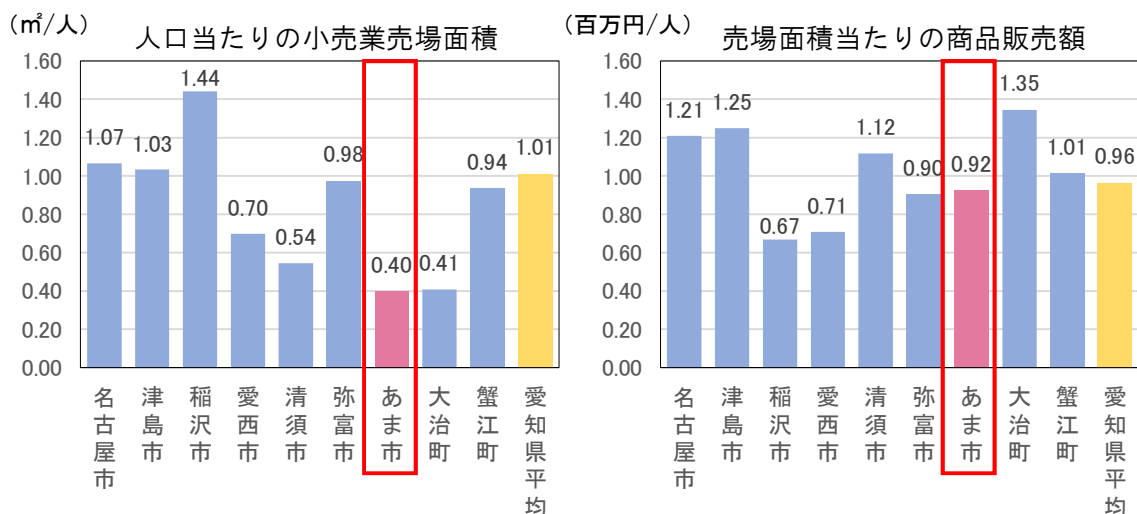
資料：商業統計調査

② 小売業に関する近隣都市との比較

本市の商業（小売業）の人口1人当たりの売場面積は、周辺市町及び県平均を大きく下回っています。

また、売場面積当たりの商品販売額（売場効率）は県平均を下回るとともに、名古屋市や津島市、清須市、大治町等の周辺市町を大きく下回っています。

■ 小売業の近隣都市比較



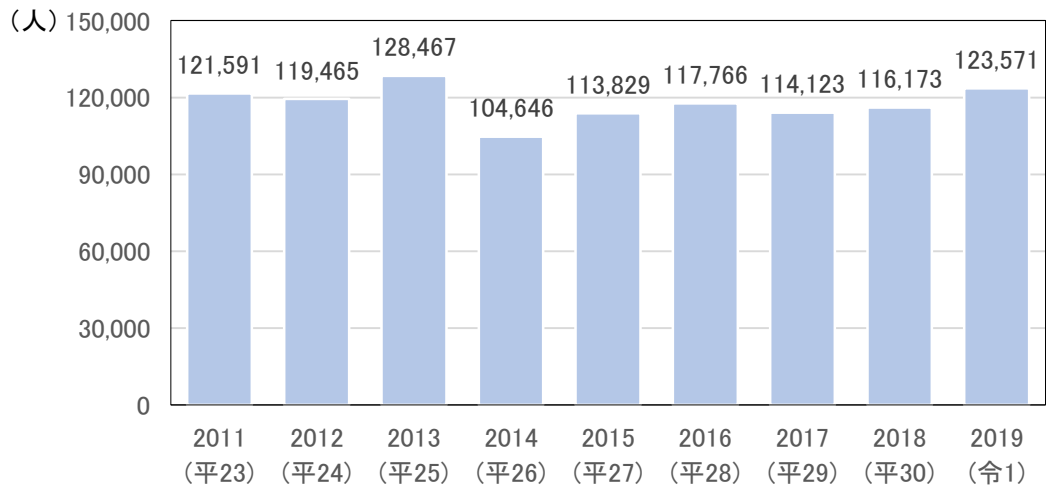
資料：2014（平成26）年商業統計調査、2015（平成27）年国勢調査

(7) 観光

本市の主な観光資源としては、「七宝焼アートヴィレッジ」や「七宝焼原産地道標」といった七宝焼に関する資源があります。観光レクリエーション利用者数は12万人前後で推移しています。

この他、次ページに示す観光資源が市内に神社や寺院が点在しています。

■観光レクリエーション利用者数の推移



資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計

■主な観光資源



七宝焼アートヴィレッジ



蓮華寺



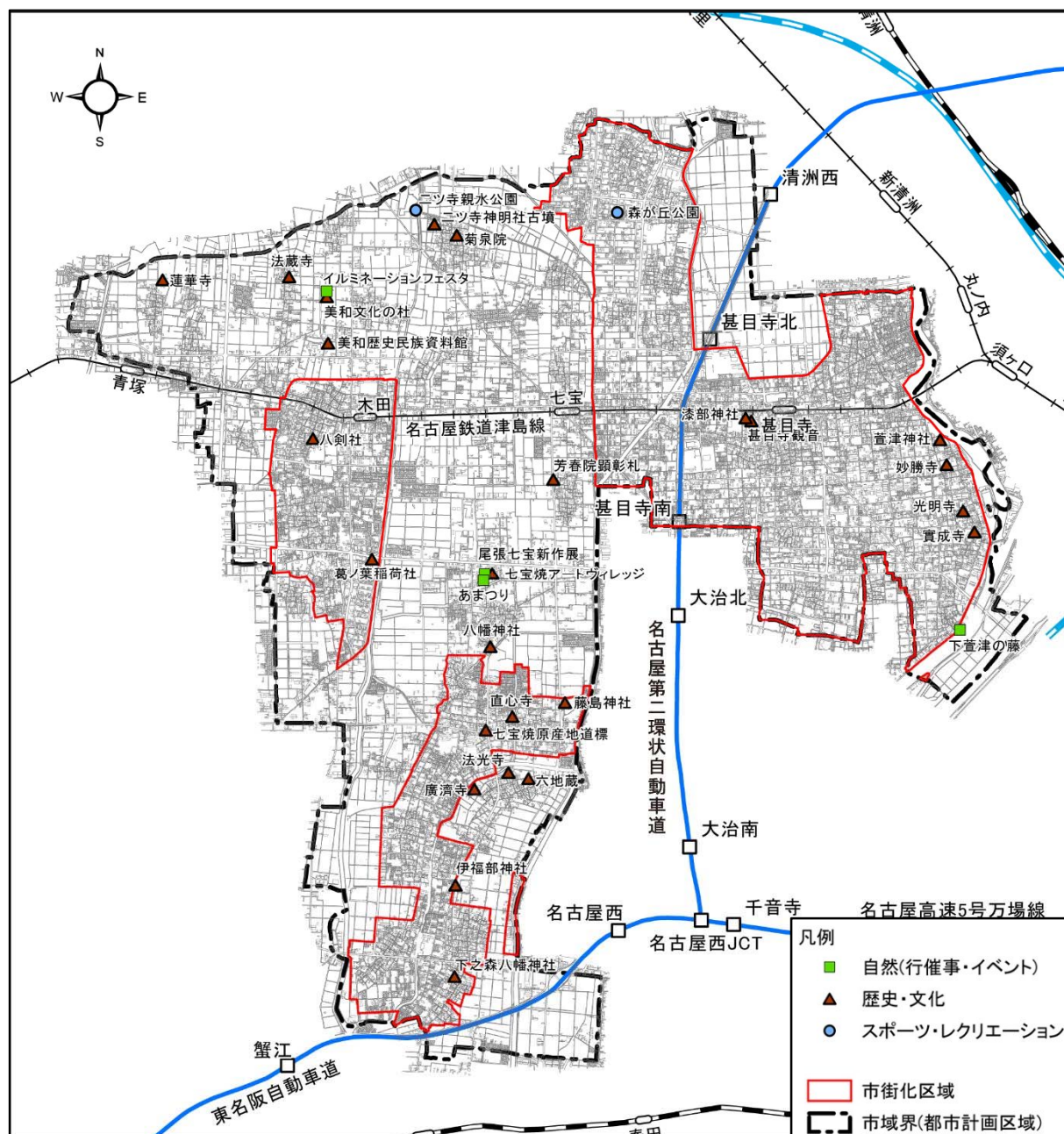
ニツ寺親水公園



芳春院の里

資料：あま市観光協会ホームページ

■観光資源の分布



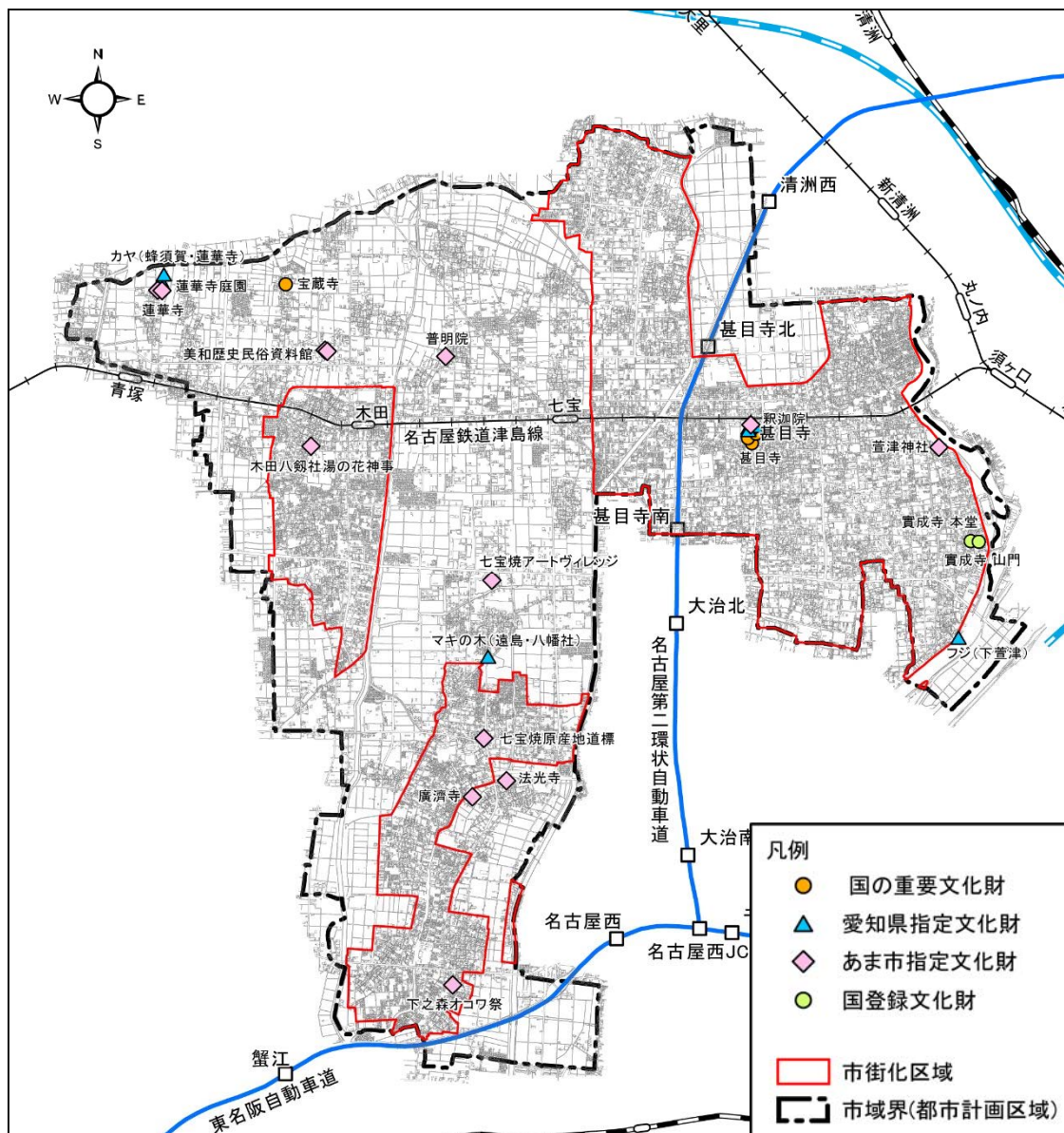
■主な観光資源

名称	区分	名称	区分	名称	区分
下萱津の藤	自然（行催事・イベント）	妙勝寺	歴史・文化	八幡神社	歴史・文化
イルミネーションフェスタ		光明寺		直心寺	
尾張七宝新作展		賽成寺		藤島神社	
あまつり		漆部神社		七宝焼原産地道標	
二ツ寺親水公園	スポーツ・レクリエーション	八剣社	歴史・文化	法光寺	歴史・文化
森ヶ丘公園		芳春院顕彰札		六地藏	
蓮華寺	歴史・文化	葛ノ葉稻荷社		廣濟寺	
法蔵寺		二ツ寺神明社古墳		伊福部神社	
菊泉院		美和文化の社		下之森八幡神社	
甚目寺観音		美和歴史民俗資料館			
萱津神社		七宝焼アートヴィレッジ			

資料：「あま市観光ガイド まちマップ」あま市観光協会

また、本市の文化財の指定状況は下図及び次ページの表に示すとおりです。
 文化財は鳳凰山甚目寺や池鈴山蓮華寺等の寺院の建造物、絵画、彫刻や工芸等が多くみられます。

■文化財の分布



資料：「国・県・市指定文化財一覧（2016（平成28）年4月現在）」あま市

■指定文化財一覧

あま市の指定文化財一覧・国の重要文化財

所有・所蔵先	種別	名称	員数	時代等	指定年月日	所在
鳳凰山甚目寺	建造物	甚目寺 南大門	1 棟	鎌倉時代	M33.4.7	甚目寺東大門前24
	建造物	甚目寺 三重塔	1 棟	寛永4年(1627)	S28.11.4	甚目寺東大門前24
	建造物	甚目寺 東門	1 棟	寛永11年(1634)	S28.11.4	甚目寺東大門前24
	絵画	絹本着色不動尊像図	1 幅		M34.3.27	甚目寺東大門前24
	絵画	絹本着色仏涅槃図	1 幅		M34.3.27	甚目寺東大門前24
	彫刻	木造愛染明王坐像	1 軀	弘安4年(1281)	H24.9.6	甚目寺東大門前24
法蔵寺	彫刻	鉄蔵地藏菩薩立像	1 軀	寛喜2年(1230)	S46.6.22	中橋郷中16

愛知県指定文化財

所有・所蔵先	種別	名称	員数	時代等	指定年月日	所在
池鈴山蓮華寺	絵画	金剛界・胎蔵界曼荼羅	各1幅	鎌倉時代	S33.3.29	蜂須賀大寺1352
	彫刻	木造仏頭	1 軀	平安時代	S33.3.29	
	書跡	法華経	8 巻	室町時代	S33.3.29	
	名勝	蓮華寺庭園	1,479 m ²	室町時代 ^カ	S40.5.21	
	天然記念物	カヤ(蜂須賀・蓮華寺)	1 本	樹齢約 500 年	S33.6.21	
鳳凰山甚目寺	彫刻	木造仁王像	2 軀	慶長2年(1597)	S33.6.21	甚目寺東大門前24
	工芸	瑞花双鸞八稜鏡	1 枚	伝白鳳時代	S40.5.21	
	工芸	梵鐘	1 口	建武4年(1337)	S40.5.21	
釈迦院	絵画	田中訥言画蹟	3 幅	江戸時代(1800年頃)	S33.6.21	甚目寺東大門前24
あま市	天然記念物	フジ(下萱津)	1 本	樹齢約 350 年	S29.3.12	下萱津未見取1130-42
八幡神社	天然記念物	マキノ木(遠島・八幡社)	1 本	樹齢約 350 年	S30.6.3	七宝町遠島八幡島424

あま市指定文化財

所有・所蔵先	種別	名称	員数	時代等	指定年月日	所在
普明院	彫刻	金銅阿弥陀如来立像	1 軀	明応9年(1500)	H3.12.11	花長川内70
池鈴山蓮華寺	彫刻	二十五菩薩面	25 面	室町～江戸初期作	H28.2.25	蜂須賀大寺1352
月桂山法光寺	工芸	梵鐘	1 口	元和4年(1618)	H8.2.1	七宝町桂郷内1608
天桂山廣濟寺	工芸	雲版	1 面	宝暦11年(1761)	H12.11.1	七宝町桂郷内1679
七宝焼アートヴィレッジ	工芸	間取り花鳥文大花瓶	1 点	明治30年頃作	H27.1.27	七宝町遠島十三割2000
美和歴史民俗資料館	書跡	家康筆徳政免除証文	1 通	永禄7年(1564)	S60.11.8	花正七反地1
	書跡	俳諧相伝名目	1 巻	享保11年(1726)	H1.11.10	
	歴史資料	富塚村水帳	3 冊	慶長13年(1608)	S62.2.2	
鳳凰山甚目寺	史跡	甚目寺境内地	9,193 m ²	甚目寺遺跡	S59.3.1	甚目寺東大門24
あま市	史跡	七宝焼原産地道標	1 基	明治28年(1895)	H12.11.1	七宝町桂北海道
萱津神社	無形民俗	香の物祭	1	8月21日実施	S60.4.22	上萱津車屋19
下之森地区	無形民俗	下之森オコワ祭	1	2月11日実施	H24.10.22	七宝町下之森
木田地区	無形民俗	木田八剱社湯の花神事	1	10月第2日曜実施	H24.10.22	木田宮東16
池鈴山蓮華寺	無形民俗	二十五菩薩お練り供養	1	4月第3日曜実施	H28.2.25	蜂須賀大寺1352

国登録文化財

所有・所蔵先	種別	名称	員数	時代等	指定年月日	所在
長久山實成寺	建造物	實成寺 本堂	1 棟	江戸前期の改修	H17.2.9	中萱津南宿254
	建造物	實成寺 山門	1 棟	江戸中期の改修	H17.2.9	

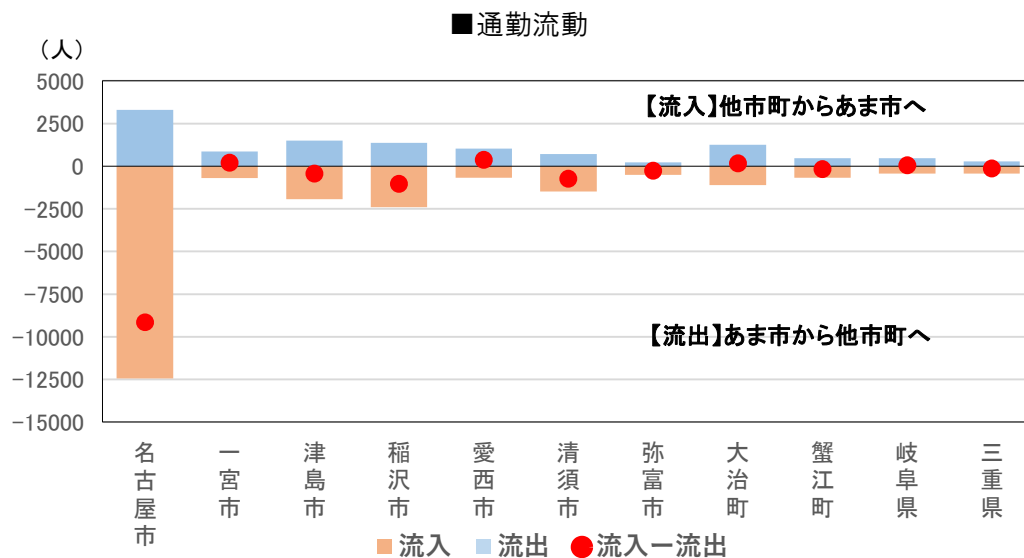
資料：「国・県・市指定文化財一覧（2016（平成28）年4月現在）」あま市

(8) 通勤流動

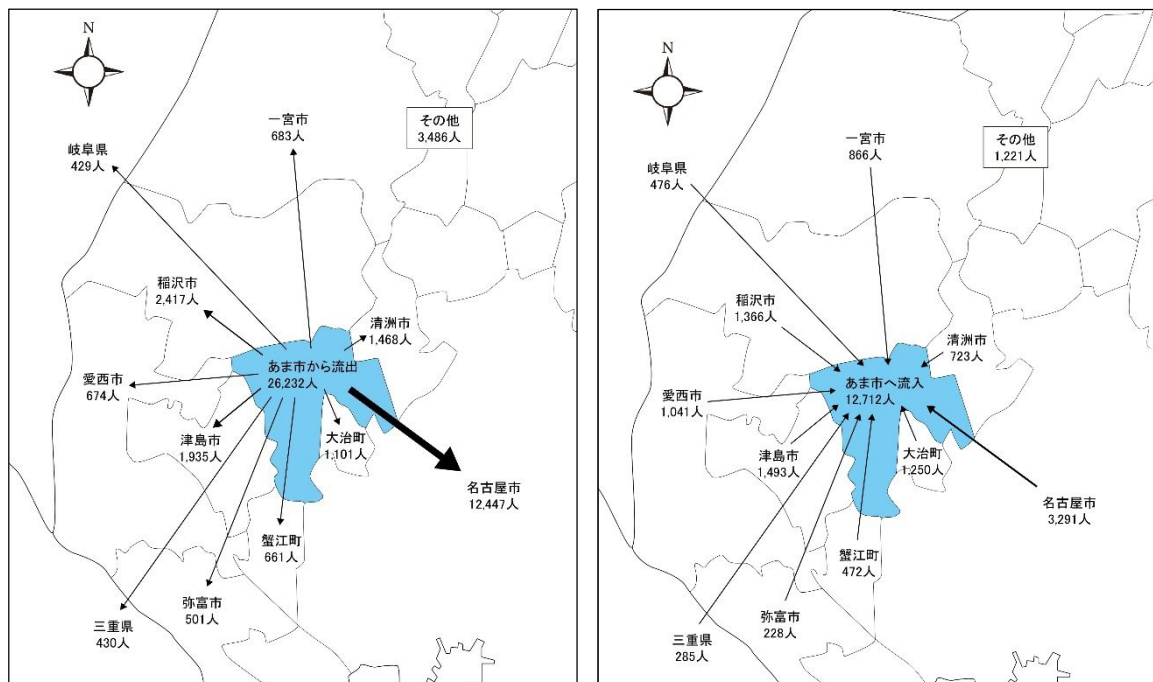
本市に居住する就業者の内、市内で就業する人は約 35%であり、約 65%が市外で就業しています。一方、他市町に居住し本市で就業している人は約 44%となっています。

通勤流動の多い市町は名古屋市、稲沢市、津島市、大治町、清須市の順であり、特に名古屋市へは本市に居住する就業者の約 30%が通勤しています。

また、周辺都市への流出人口は 26,232 人、周辺都市からの流入人口が 12,712 人と流出超過となっており、市町別では名古屋市への流出超過が特に多くみられます。



資料：2015（平成 27）年国勢調査



※あま市に居住している人があま市内に通勤している人数 14,526 人

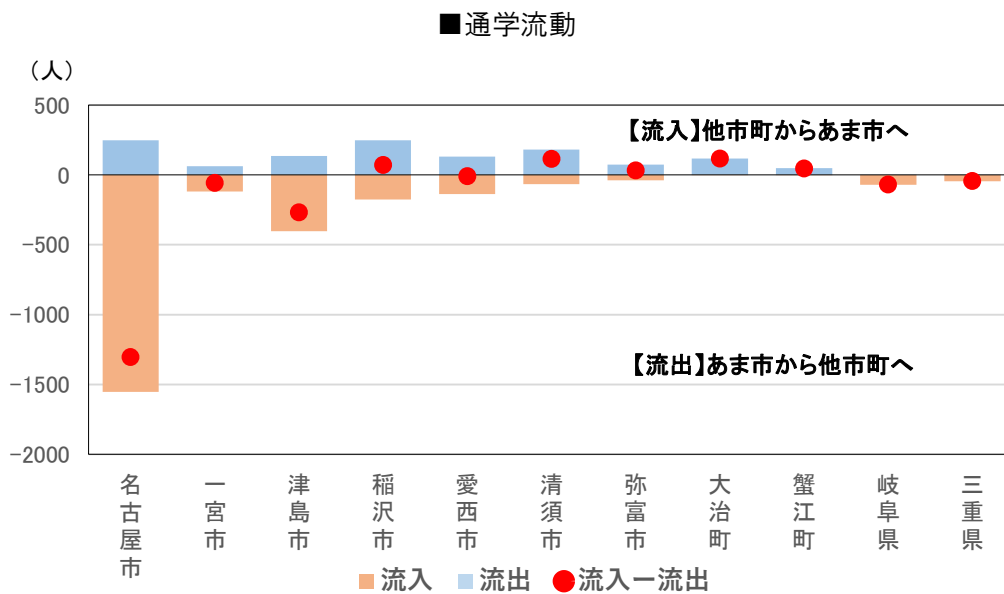
資料：2015（平成 27）年国勢調査

(9) 通学流動

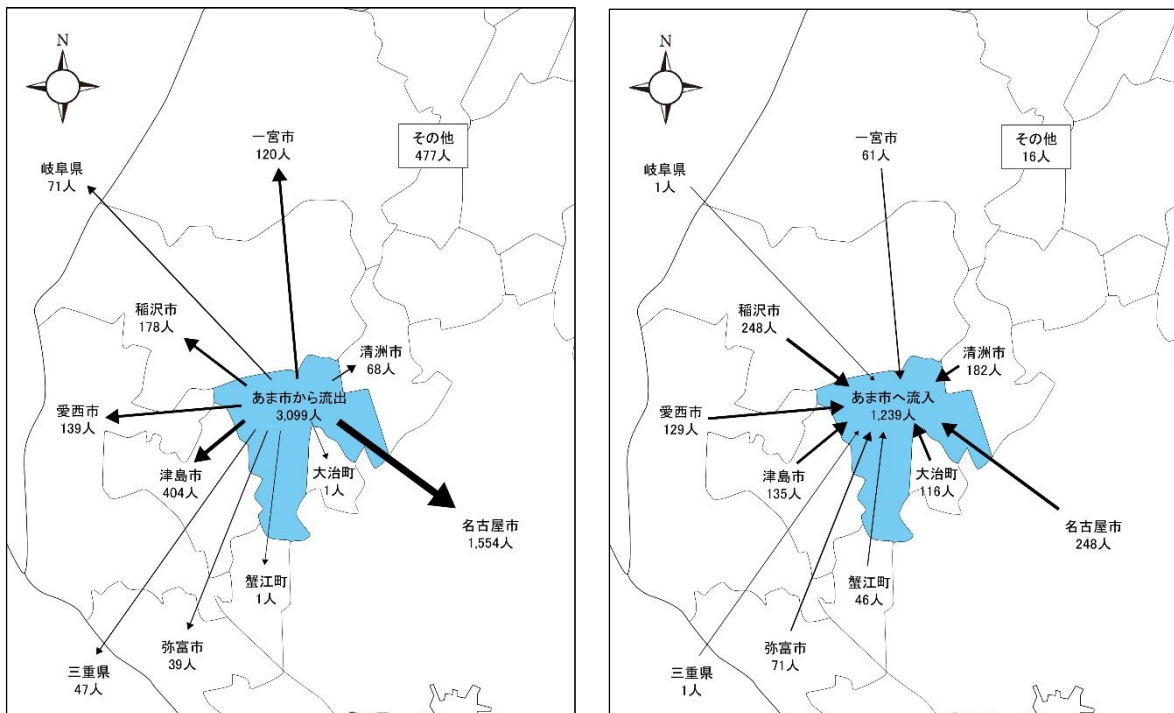
本市に居住する通学者の内、市内に通学する人は約 25%であり、約 75%が市外に通学しています。一方、他市町に居住し本市で通学している人は約 52%となっています。

通学流動の多い市町は名古屋市、津島市、稲沢市、愛西市、清須市の順であり、特に名古屋市へは本市に居住する通学者の約 37%が通学しています。

また、周辺都市への流出人口は 3,099 人、周辺都市からの流入人口が 1,230 人と流出超過となっており、市町別では名古屋市への流出超過が特に多くみられます。



資料：2015（平成 27）年国勢調査



※あま市に居住している人があま市内に通学している人数 1,043 人

資料：2015（平成 27）年国勢調査

(10) 公共交通

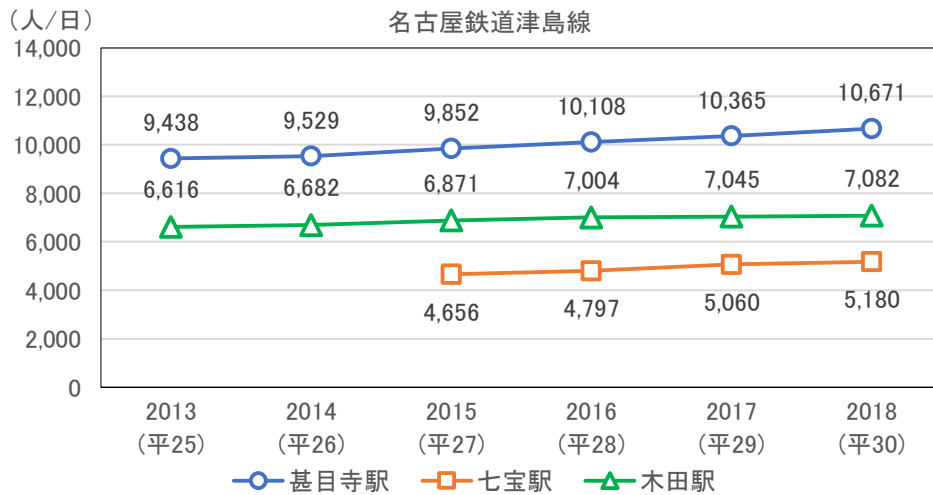
① 運行状況

本市の公共交通機関は、市域を東西に横断する名古屋鉄道津島線によって骨格が形成されており、これを補完する形であま市の巡回バスが市内各地を連絡しています。また、市域南部には名鉄バス及び名古屋市営バスが運行されています。

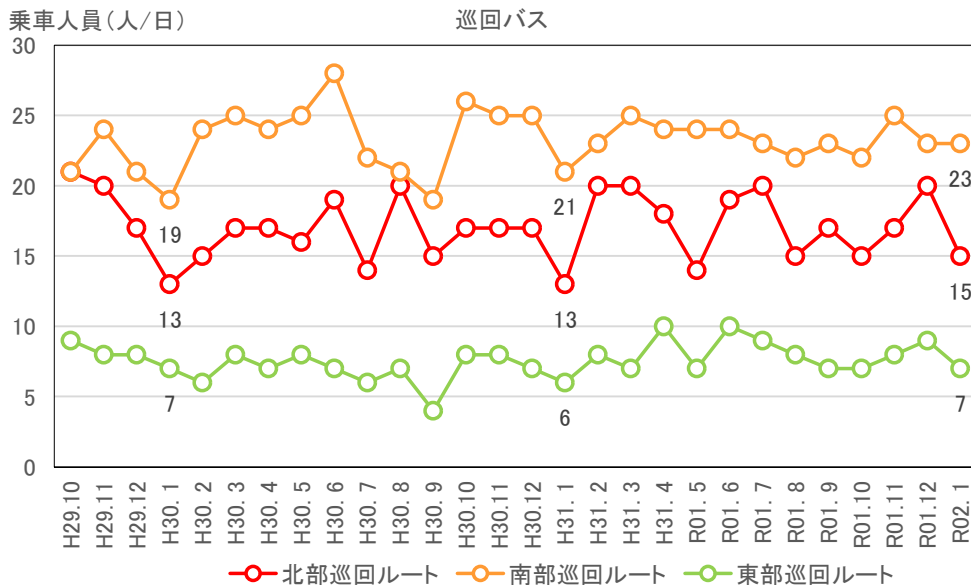
名古屋鉄道津島線3駅（甚目寺駅、七宝駅、木田駅）の日平均乗降客数は、ここ数年微増傾向となっています。

あま市巡回バスは北部巡回ルート、南部巡回ルート、東部巡回ルートの3ルートで運航されており、2017（平成29）年10月以降の1日当たりの平均乗車人数は、北部巡回ルートで15～20人/日程度、南部巡回ルートで20～25人/日程度、東部巡回ルートで5～10人/日程度で推移しています。

■ 公共交通利用者数の推移

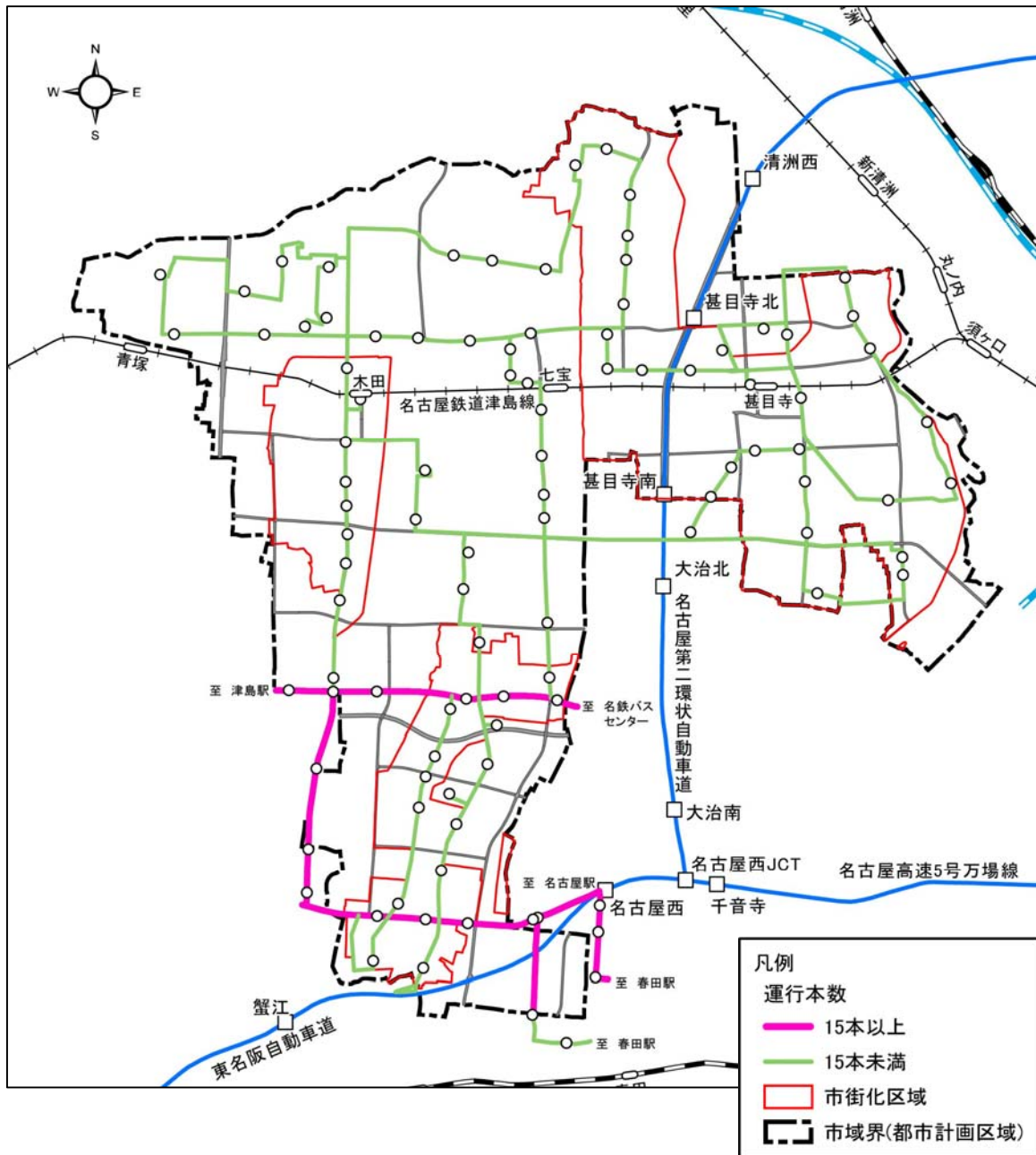


資料：あま市資料



資料：令和元年度第2回あま市地域公共交通会議「資料2 利用状況」

■公共交通運行状況

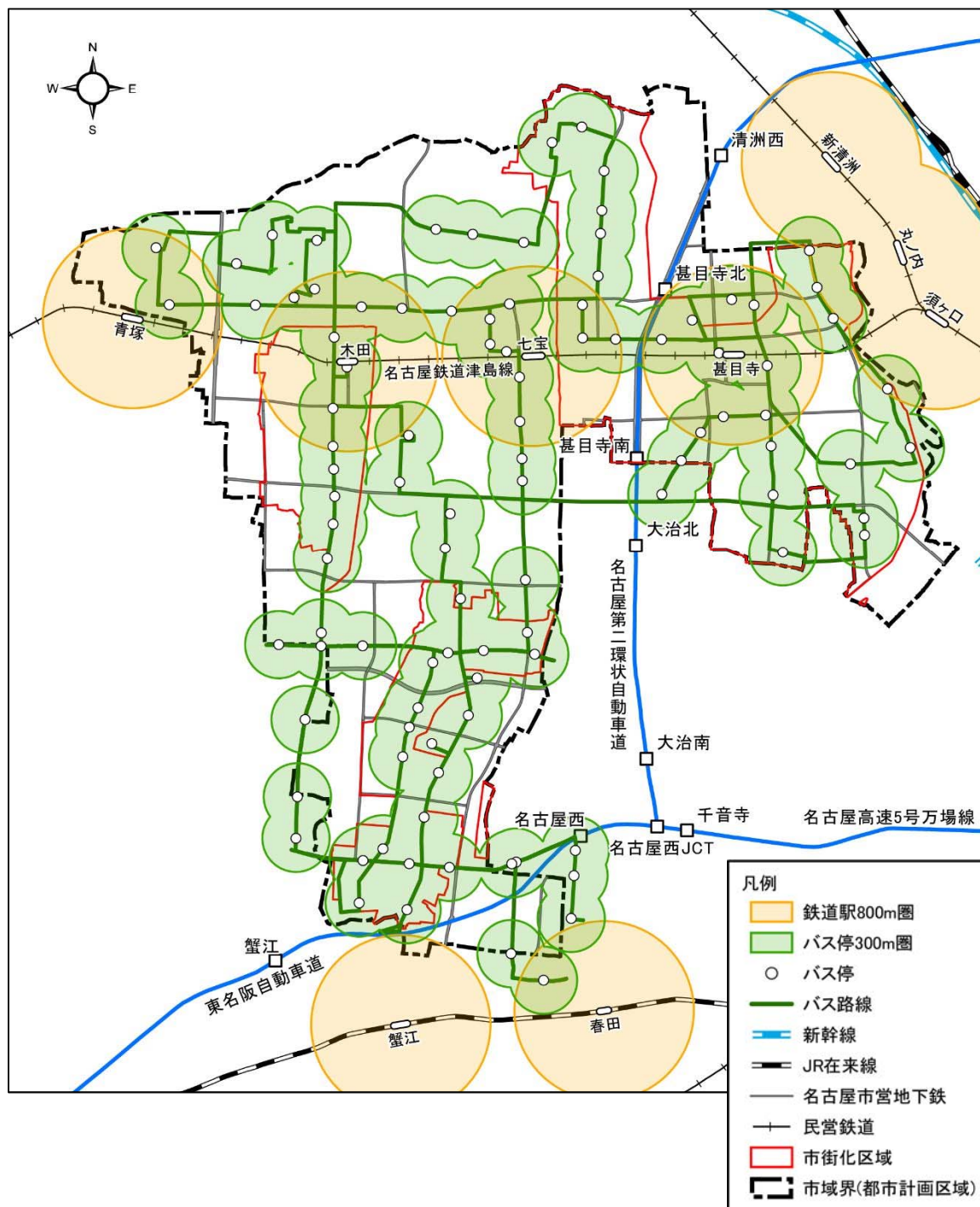


資料：国土数値情報「バスルート」、「バス停留所」にあま市巡回バスルートを追加
片道1日あたりの運行本数はバス停の時刻表より判断

②公共交通利便性

本市の市域の内、公共交通利便性の高い地域(鉄道駅から800m圏及びバス停から300m圏)は下図に示すとおりであり、市域の約7割、市街化区域の約8割が鉄道駅またバス停の利便性の高い区域となっています。

■公共交通便利地域



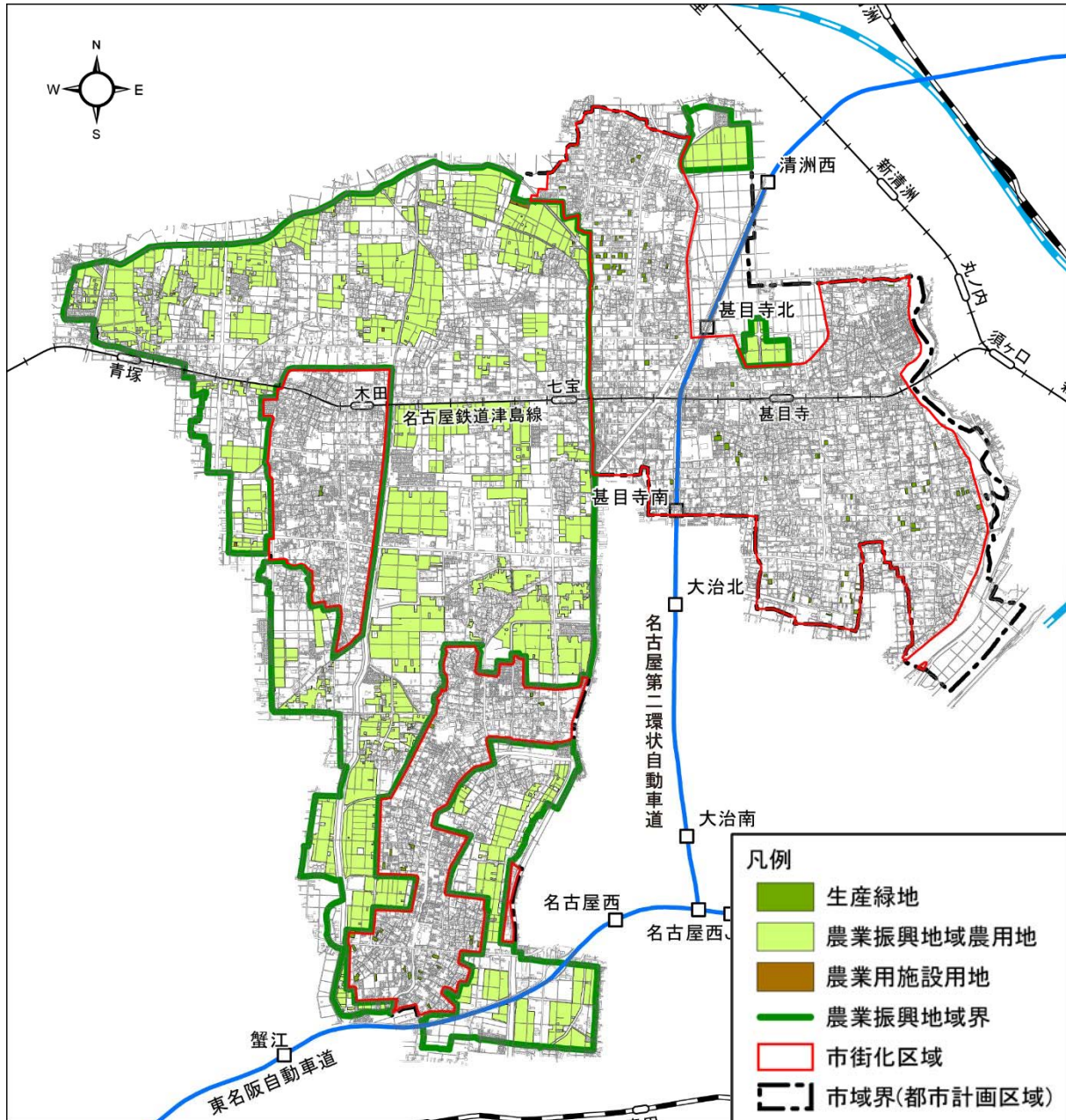
資料：国土数値情報「バスルート」、「バス停留所」及びあま市巡回バスルートを基に作成

(11) 都市環境

① 農地

本市では市街化調整区域の大部分が農業振興地域に指定されています。その内、まとまった農地が農業振興地域農用地区域に指定されています。

■ 農地の分布



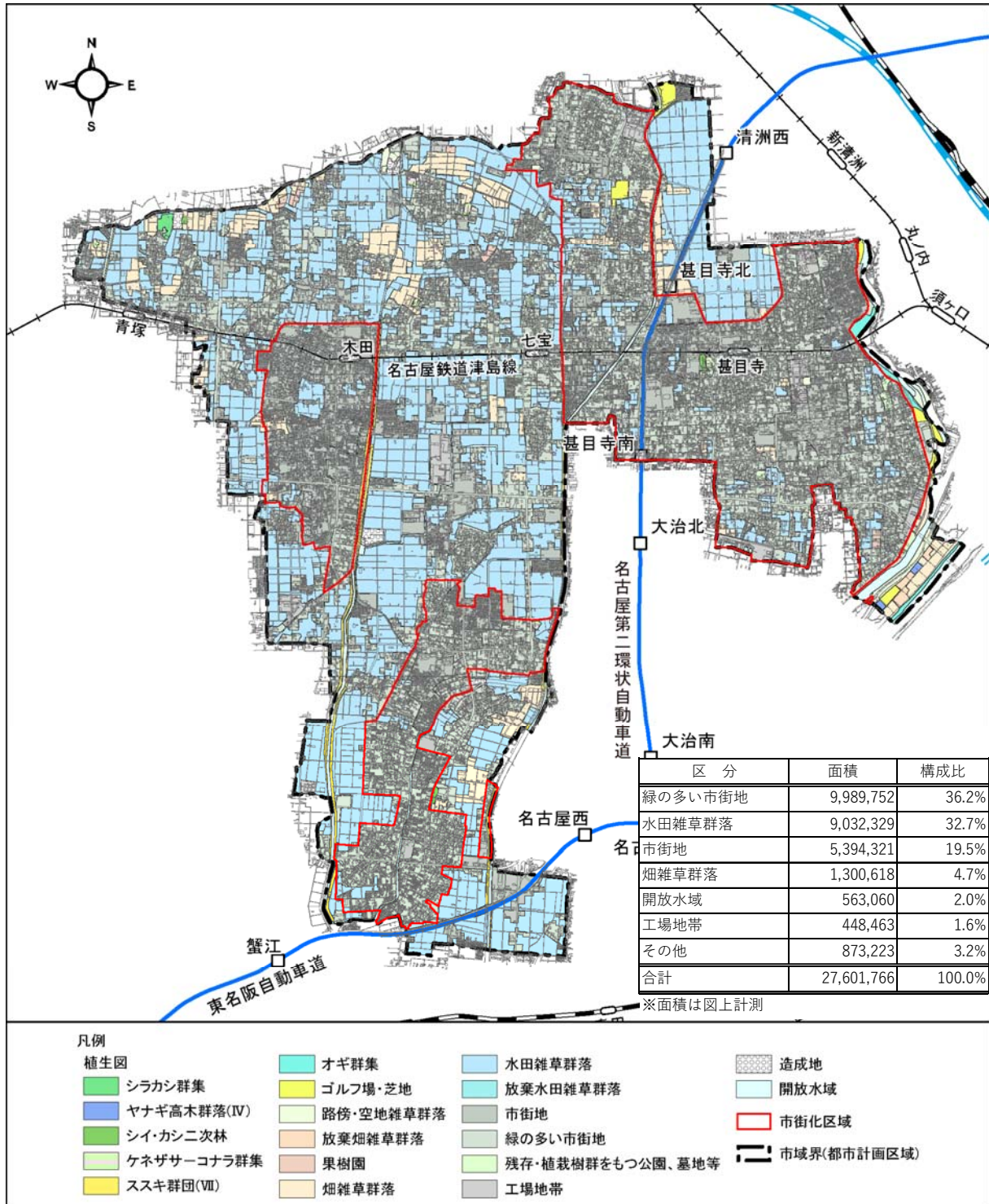
資料：あま市資料

②植生

本市の植生は緑の多い市街地、水田雑草群落及び市街地が市域の約9割を占めています。

また、市街化区域内の大部分を緑の多い市街地及び市街地が占めている一方、市街化調整区域では水田雑草群落や緑の多い市街地、市街地、畑雑草群落が分布しています。

■植生分布

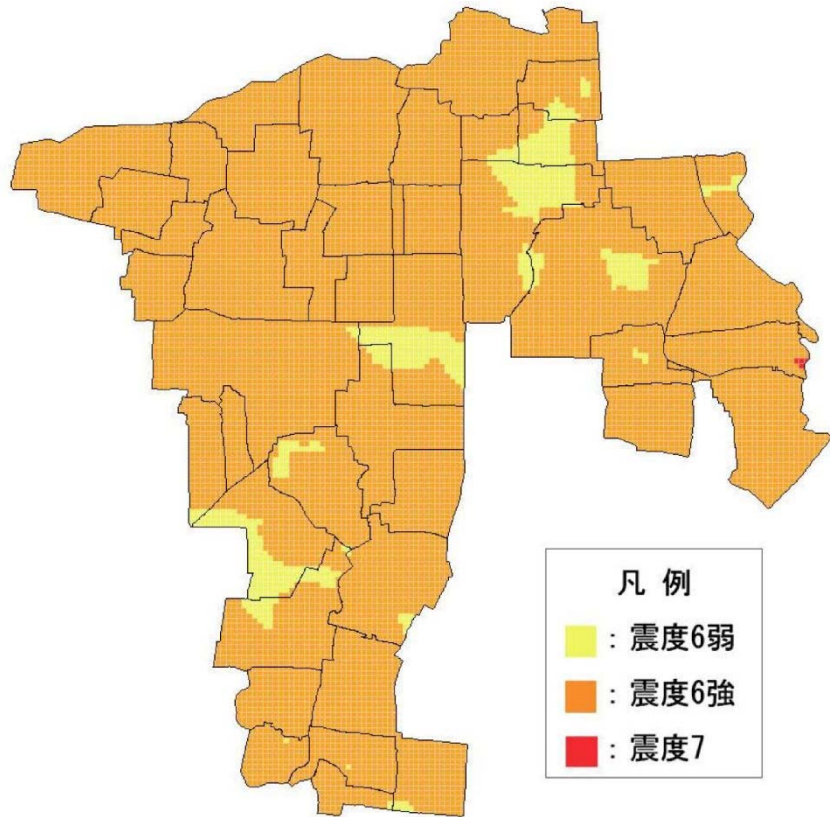


資料：「1/2.5万植生図GISデータ（蟹江、清洲）」環境省生物多様性センター

(12) 災害危険性

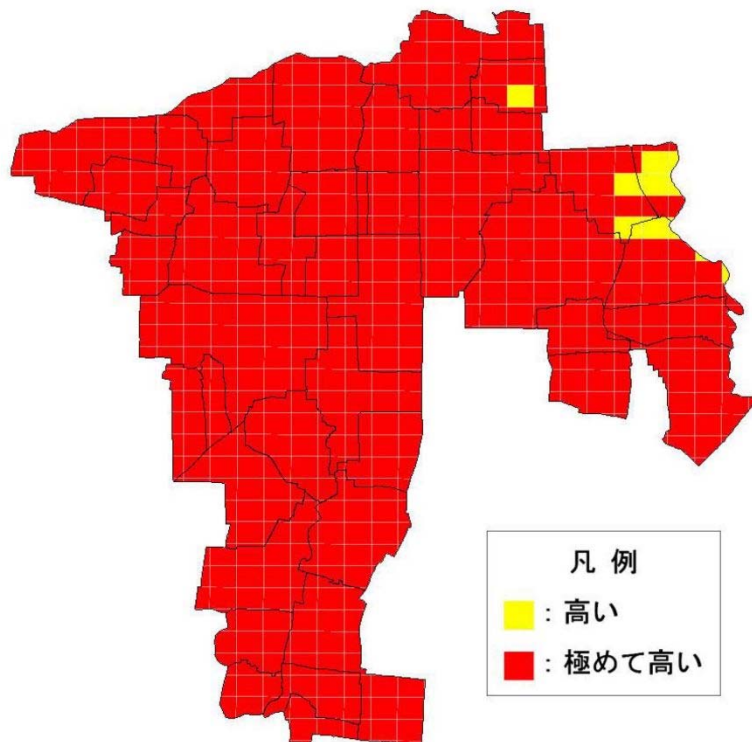
①地震（震度予測）

南海トラフ地震に係る愛知県の被害想定によると、市内の大部分が震度6強となっています。



②地震（液状化危険度）

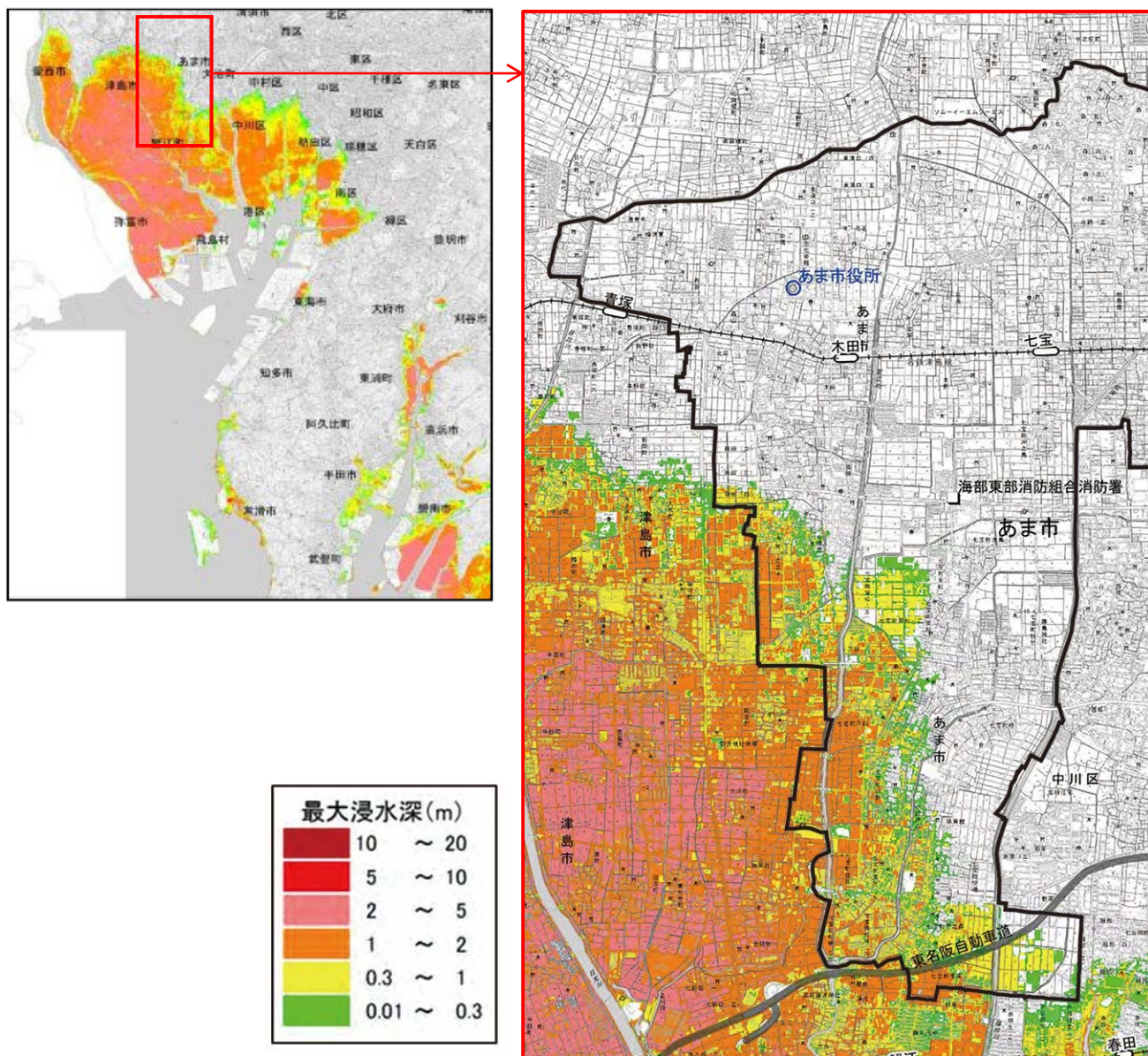
南海トラフ地震に係る愛知県の被害想定によると、市内の大部分が「極めて高い」となっています。



③地震（津波浸水予測）

本市では、地震による津波が市域南西部に到達すると予測されています。
市域に到達する津波の浸水深は最大で1～2mと予想されています。

■津波浸水想定



※「愛知県津波浸水想定」図面に市域を追加し加工表示

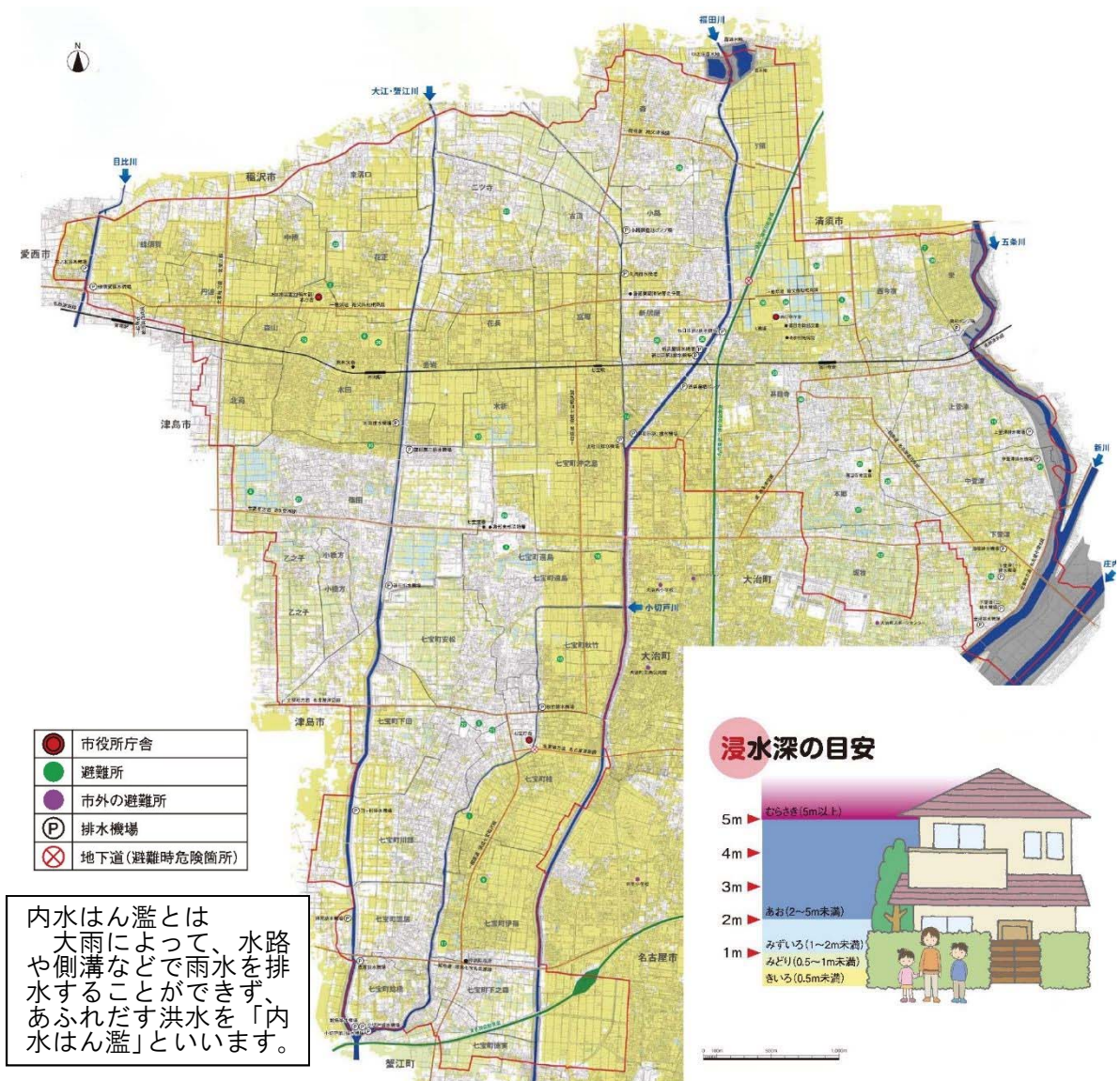
資料：愛知県資料

④洪水浸水想定（※今年度更新予定）

本市では大雨によって、水路や側溝などで雨水を排水することができなくなった場合、市域のほぼ全域で内水はん濫の発生が想定されており、内水はん濫が発生した場合の浸水深は最大で1m未満と予想されています。

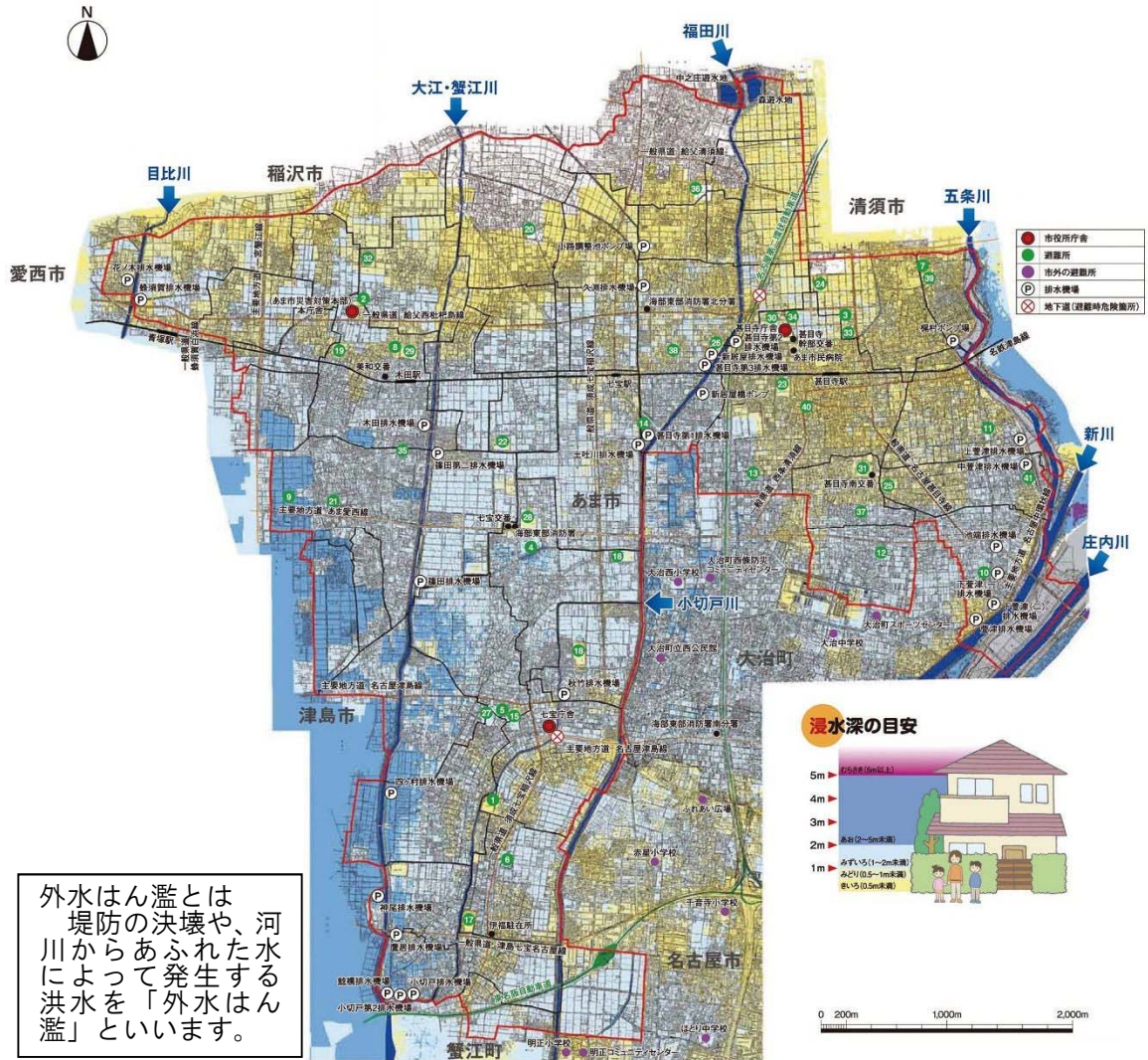
また、堤防の決壊や河川からあふれた水による外水はん濫も、同様に市域のほぼ全域で発生が想定されています。特に、市域中央部付近及び津島市との市境付近では想定される浸水心が2～5mとなっています。

■内水ハザードマップ



資料：あま市資料

■外水ハザードマップ



資料：あま市資料

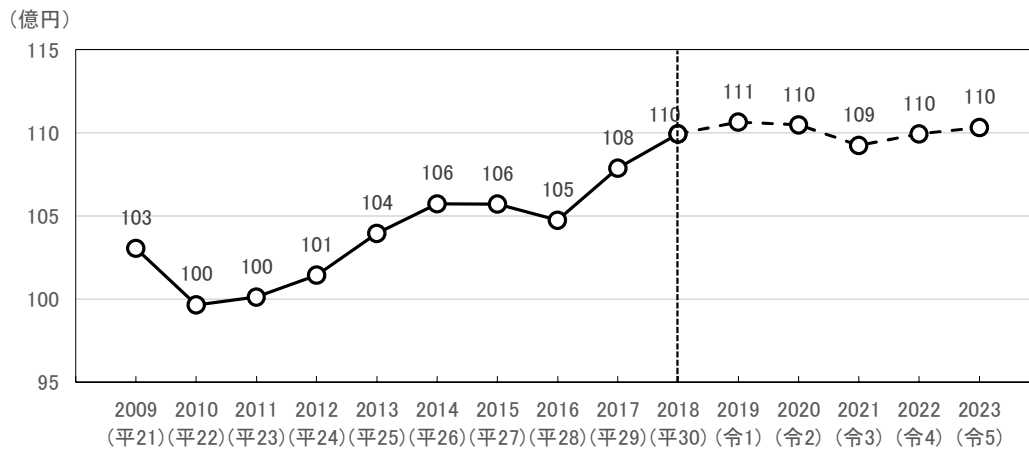
(13) 都市経営

①歳入

本市の2010（平成22）年の市税収入額は約100億円で、直近10年間の最低額でしたが、その後増加傾向にあり、2018（平成30）年の市税収入額は110億円となっています。

今後の市税収入額は、生産年齢人口の減少が予想されているものの、110億円前後で横ばいが続くと想定されています。

■市税収入の推移



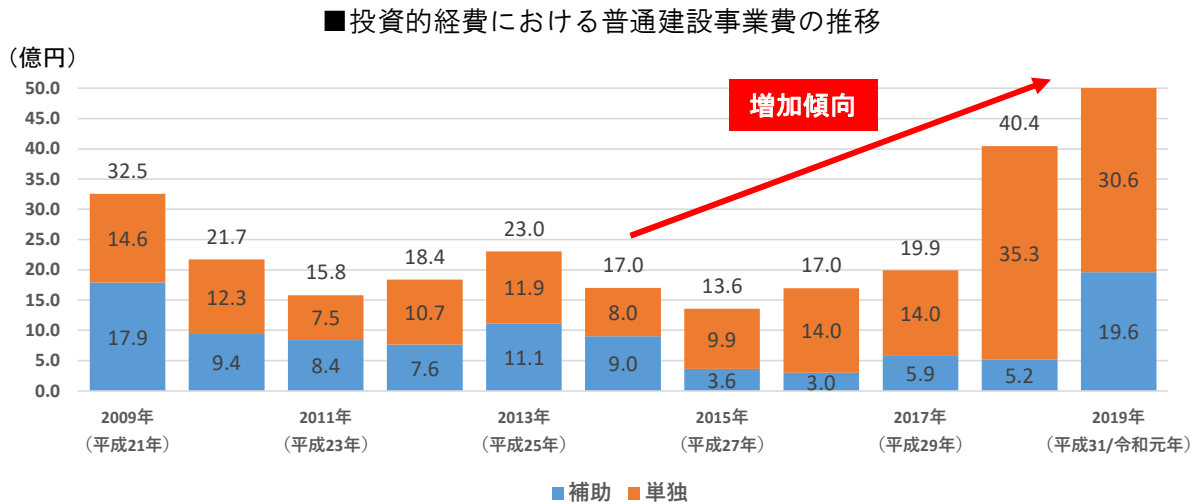
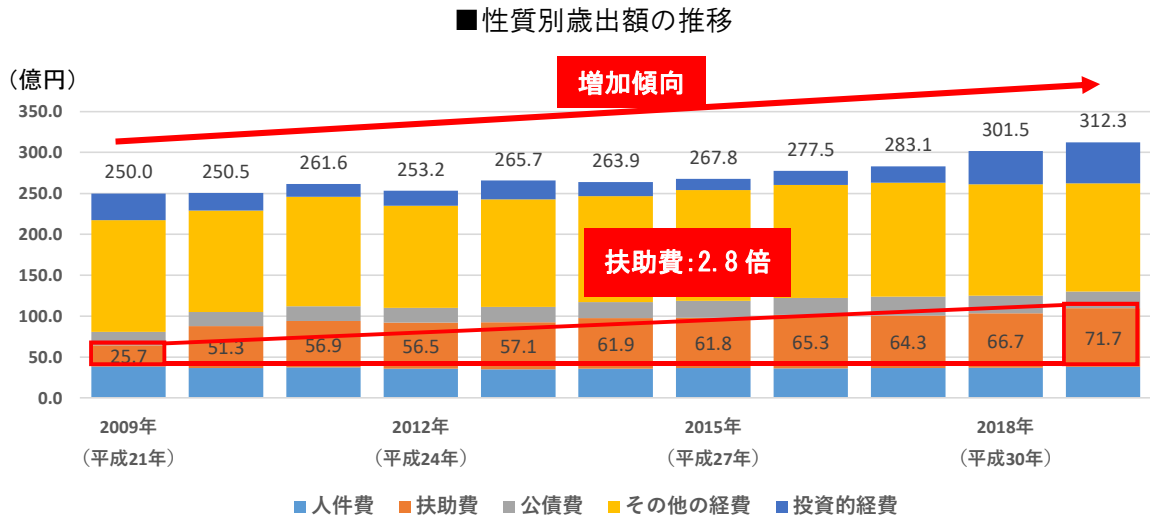
資料：あま市決算カード、中期財政計画（2019（平成31/令和元）年ローリング版）

※中期財政計画の見直しにより、今後記載内容を更新予定。

②歳出

本市の歳出額は、ここ10年間で約250億円から約310億円へと60億円程度増加しています。これは、高齢化の進行とともに扶助費が増加（2009（平成21）年から2019（平成31/令和元）年で2.8倍）していることが一因だと考えられます。

また、投資的経費（道路や学校、公共施設等の施設がストックとして将来に残るものに支出される経費で、普通建設事業費と災害復旧事業費に区分される）における普通建設事業費も増加傾向にあり、今後も増加傾向が続くこと推測されます。

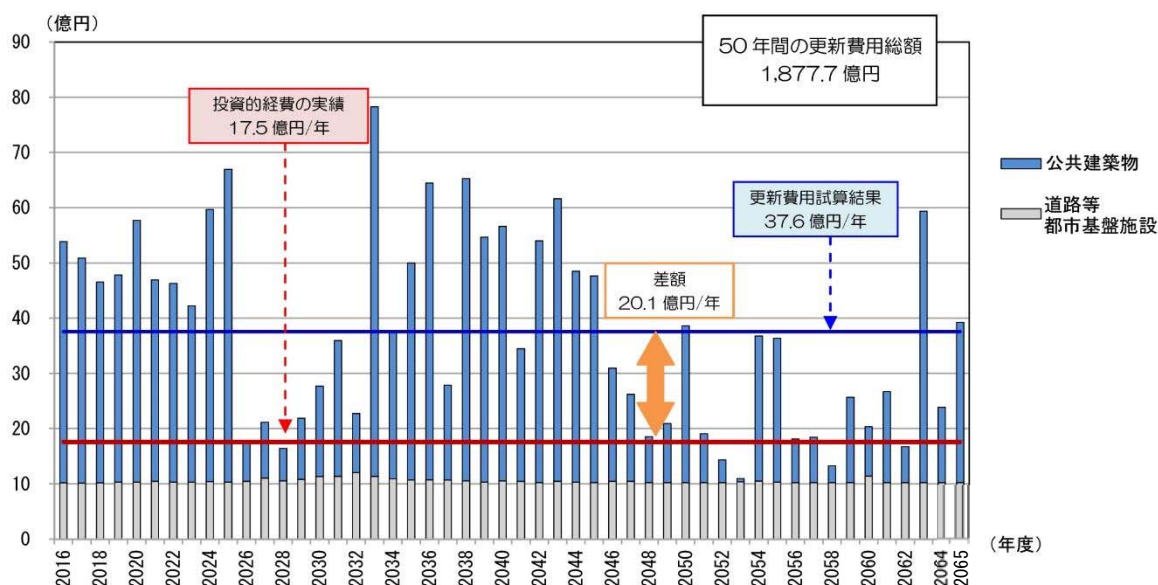


③公共施設、インフラ維持管理費

本市の投資的経費は、2011（平成 23）年から 2015（平成 27）年の平均で約 17.5 億円となっています。

一方、2065（令和 47）年までの 50 年間の公共建築物及び道路等都市基盤施設の更新費用総額は約 1,877.7 億円、年平均約 37.6 億円となり、近年の投資的経費の実績を大きく上回ることが推測されます。

■更新費用の将来見込み（公共建築物＋道路等都市基盤施設）



資料：あま市公共施設等総合管理計画（2017（平成 29）年 3 月）

3 都市づくりの課題

現行都市計画マスタープラン（2017（平成 29）年 3 月改定）における都市づくりの目標ごとに社会の潮流を考慮し、都市づくりの課題の整理を行うキーワードを抽出しました。



抽出したキーワードごとに、社会の潮流を踏まえつつ、あま市の強み・弱みを抽出したうえで、課題の整理を行います。

【社会の潮流】

- 安全安心に暮らせる都市づくりの観点
- ・地震や風水害などの災害の頻発・激甚化への対応
 - ・新型コロナ危機を契機とした新しい生活様式への対応 等

- 魅力的な拠点や市街地形成の観点
- ・人口減少社会に対応した持続的な都市づくりへの対応
 - ・ICT(自動車の自動運転など)の都市づくりへの活用 等

- 豊かな自然と歴史・文化を守り活かす観点
- ・環境問題の進行と低炭素・循環型都市づくりへの対応
 - ・SDGsの考え方の広まり
 - ・魅力ある地域の継承の重要性の高まり 等

- 活力ある産業や交流創出の観点
- ・経済のグローバル化による国際間・地域間の競争の激化
 - ・テレワークの広がりなどの労働を取り巻く環境の変化 等

- 地域の人や力を活かした都市づくりの観点
- ・市民ニーズの多様化
 - ・SNSなどの情報通信技術を活用した市民活動の拡大 等

キーワード	あま市の「強み」	あま市の「弱み」	市民アンケート調査結果	都市づくりの課題の整理
暮らしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ○全国的に人口減少社会に入中、依然人口増加傾向である(最近10年間で約1,600人の増加(国勢調査)) ○名古屋市の西側に位置し、名古屋市中心部へ鉄道や路線バスで約15~30分でアクセスし交通利便性が高い ○市内全域にあま市巡回バスが運行されている ○木田駅南において「あま木田郷南土地区画整理事業」が施行中であるなど、駅周辺における利便性の高い住宅地整備を推進している ○市内全域に公共施設や都市機能が網羅されている ○公共下水道は市街化区域を中心に順次整備が進んでいる ○市役所新庁舎の整備が進む 	<ul style="list-style-type: none"> △今後の人口は2015(平成27)年の約86,900人から2045(令和27)年の約73,600人と、30年間で約15%減少する予測である(国立社会保障・人口問題研究所推計) △今後高齢化が2015(平成27)年の約26%から2045(令和27)年の約33%と、30年間で約8%増加する予測である(国立社会保障・人口問題研究所推計) △今後市街化区域においても人口密度が市街地の目安である40人/haを下回る地域が広がる予測である △都市計画道路の整備済延長は約37%にとどまっている △都市公園は約13ha整備され、人口1人当たりの整備面積は1.45㎡/人にとどまっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あま市内で住み続けたい」との回答が約7割を占め多い回答 ・今後のまちづくりで望まれていることは「都市基盤が整った快適なまち」が多くを占める ・鉄道の利便性が高いという意見が多い一方、バスの利便性については満足度が低い ・地域に充実が求められている施設としては、商業施設、医療施設等を挙げる意見が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会における持続可能な都市構造の形成 ・駅周辺などの利便性の高い地域における都市基盤整備 ・地域の生活利便性を考慮した公共施設や都市機能の維持・充実 ・市役所新庁舎周辺の拠点形成 ・公共施設や都市公園などのオープンスペースを活かした新たな生活様式への対応 ・自動車の自動運転などのICTの都市づくりへの活用 ・市街化区域の拡大を念頭に置いた暮らしやすい住宅地の整備
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ○排水対策が順次推進されている ○建物耐震化が順次推進されている 	<ul style="list-style-type: none"> △ほぼ全域が海拔ゼロメートル以下であり、外水・内水による浸水想定がかかる △大地震における液状化の危険性が大きいため、津波浸水想定に一部かかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のまちづくりで望まれていることは「地震・大雨など自然災害に強いまち」が多くを占める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト・ハードにわたる防災・減災の取組推進 ・排水対策の継続的な実施 ・建物耐震化の継続的な促進
都市の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ○経済産業省指定の伝統的工芸品として国から認定を受けている「七宝焼」、尾張四観音の一つであり国の重要文化財を有する「甚目寺観音」、愛知県指定の文化財を包蔵する「蓮華寺」など優れた歴史・文化資源が豊富である ○七宝焼アートヴィレッジなど、文化資源を活かした施設が立地している ○国内生産量の約6割の刷毛を本市で生産している 	<ul style="list-style-type: none"> △市内の商店数・従業員数は減少傾向である △「小売業の人口1人当たりの売場面積」及び「売場面積当たりの商品販売額(売場効率)」は、県平均と周辺市町を下回り、消費が市外に流出している可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が誇りを感じているものとしては「社寺やまち並みなどの歴史的景観」が多くを占める ・あま市のイメージとして「街なかに賑わいがあり新しい交流が生まれる」を挙げる意見は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化資源を活用した拠点の整備・充実 ・ブランド力を高め来訪者にPRするソフト施策の展開
都市の活力	<ul style="list-style-type: none"> ○名古屋中心部にアクセスする鉄道および路線バスがあり、通勤・通学などの利便性が高い ○名古屋第二環状自動車道のインターチェンジが近く、自動車交通の利便性が高い ○製造品出荷額は近年増加傾向である 	<ul style="list-style-type: none"> △市内の事業所・従業員は減少傾向である △新規産業を誘致できる産業用地が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ・あま市のイメージとして「幅広い産業が集積している」を挙げる意見は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路インターチェンジに近い交通利便性を活かした、産業用地の整備や低・未利用地の有効活用による、新たな企業誘致や働く場の創出
都市の環境	<ul style="list-style-type: none"> ○市街化調整区域は農業振興地域であり、まとまった農地が広がる ○庄内川、新川、五条川、福田川、蟹江川など多くの河川が流れ、水辺環境が豊富である ○多くの社寺林が分布している 	<ul style="list-style-type: none"> △農地面積は減少傾向である 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が気に入っている緑として「公園や緑地の緑」「水田や畑など農地の緑」「神社やお寺の緑」が多い ・不足している緑として「街路樹や緑道の緑」「公園や緑地の緑」が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地、河川、社寺林などの水と緑の環境の保全・活用 ・低炭素・循環型都市づくりへの対応
連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ○あま市市民活動センター「あまテラス」を拠点に、多くの市民共同事業が推進されている ○木田駅周辺まちづくり協議会など、地域住民の参画によるまちづくり活動が進められている 	<ul style="list-style-type: none"> △市民が主体的に公園施設等を管理できる仕組みづくりが不足している △民間事業者との協働による施設の維持管理体制(指定管理者制度等)が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりへの参加の関心度は「関心がない」が半数以上を占めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・事業者・行政の連携・協働による都市づくりの推進
都市経営	<ul style="list-style-type: none"> ○歳入は、当面は現在と同等の110億円程度で推移すると想定されている ※中期財政計画の見直しにより表現を再考予定 	<ul style="list-style-type: none"> △歳出は、高齢化の進行による扶助費の増加などにより増加傾向である △公共施設の維持管理費は今後増大する見込みであり、近年の投資的経費の実績を大きく上回る 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・少子高齢化社会に対応した持続可能な都市経営の推進

1 都市の将来像

現行都市計画マスタープランにおいては、「市民が主役」「地域資源の活用」「安全・安心」といった視点を踏まえ、市の将来像を「人・歴史・自然が綾なすセーフティー共創都市」と設定しました。

今回の改定では、上記の考え方を踏襲しつつ、人口減少社会において居住地や来訪先として「選ばれる都市」を目指し、市民・事業者（各種団体含む）・行政の協働により暮らしやすさや魅力を高める取組を一層推進することを目指し、以下のように設定します。

【都市の将来像（仮）】

“あまぢカラ”により暮らしやすさや魅力を高める都市づくり

※“あまぢカラ”とは

あま市には、経済産業省指定の伝統的工芸品として国から認定を受けている「七宝焼」、尾張四観音の一つであり国の重要文化財を有する「甚目寺観音」、愛知県指定の文化財を包蔵する「蓮華寺」など優れた歴史・文化資源が豊富です。また、鉄道や路線バスにて15～30分で名古屋中心部にアクセスする他、高速道路のインターチェンジが近いなど交通利便性に優れています。これらのあま市の地域ブランド・ポテンシャルや、人口減少社会において居住地や来訪先として選ばれる都市づくりに向けた市民・事業者（各種団体含む）・行政の協働による取組のことを“あまぢカラ”と名付けます。

※その他の都市の将来像の案

「人・歴史・自然が綾なすセーフティー共創都市」※現行計画を継承

「みどりと歴史に包まれた、連携・協働による暮らしやすい都市づくり」

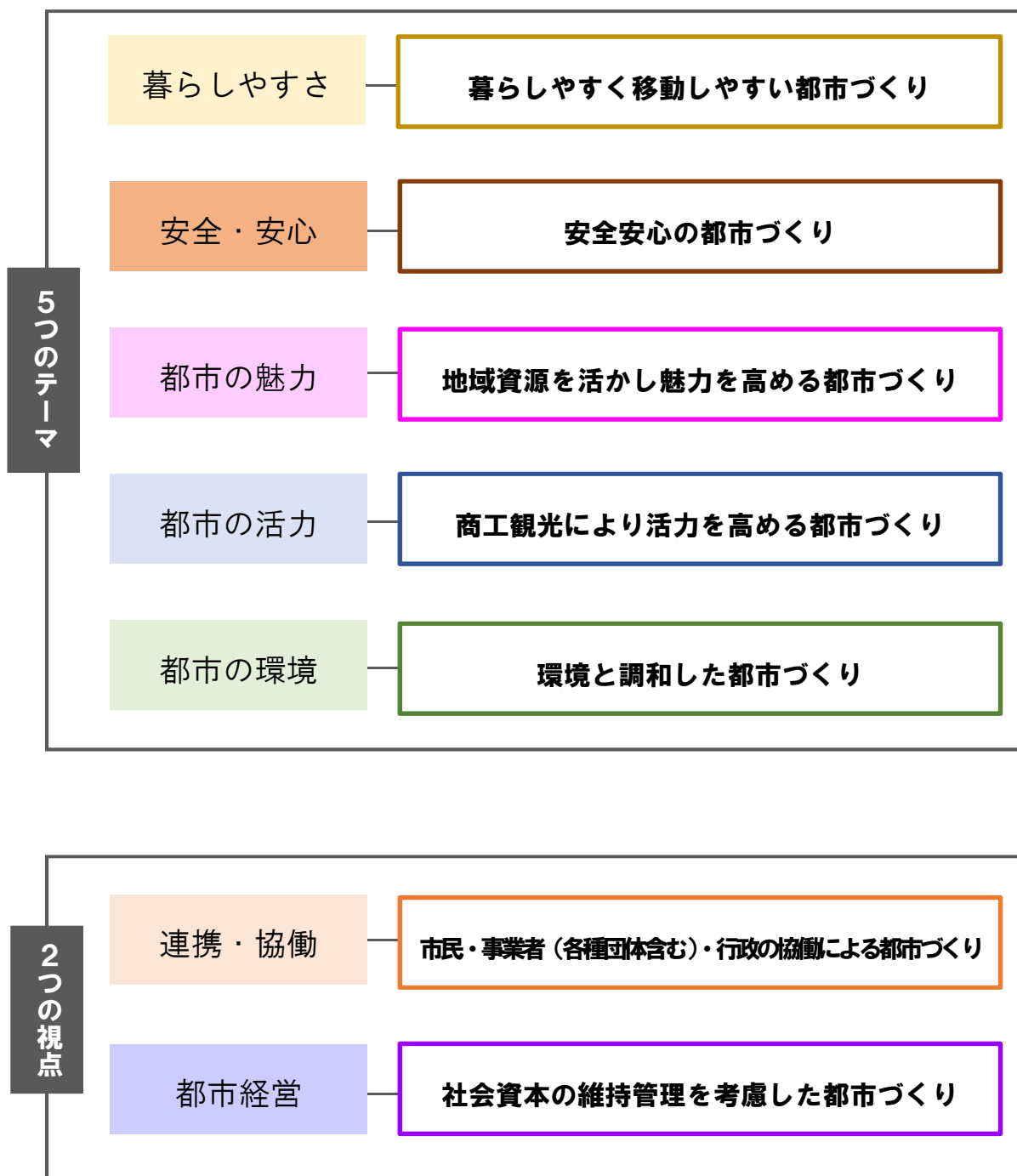
等

2 都市づくりの目標

都市づくりの課題、都市の将来像を踏まえ、都市づくりの目標として以下の5つのテーマ、2つの視点を定めます。

課題のキーワード

都市づくりの目標



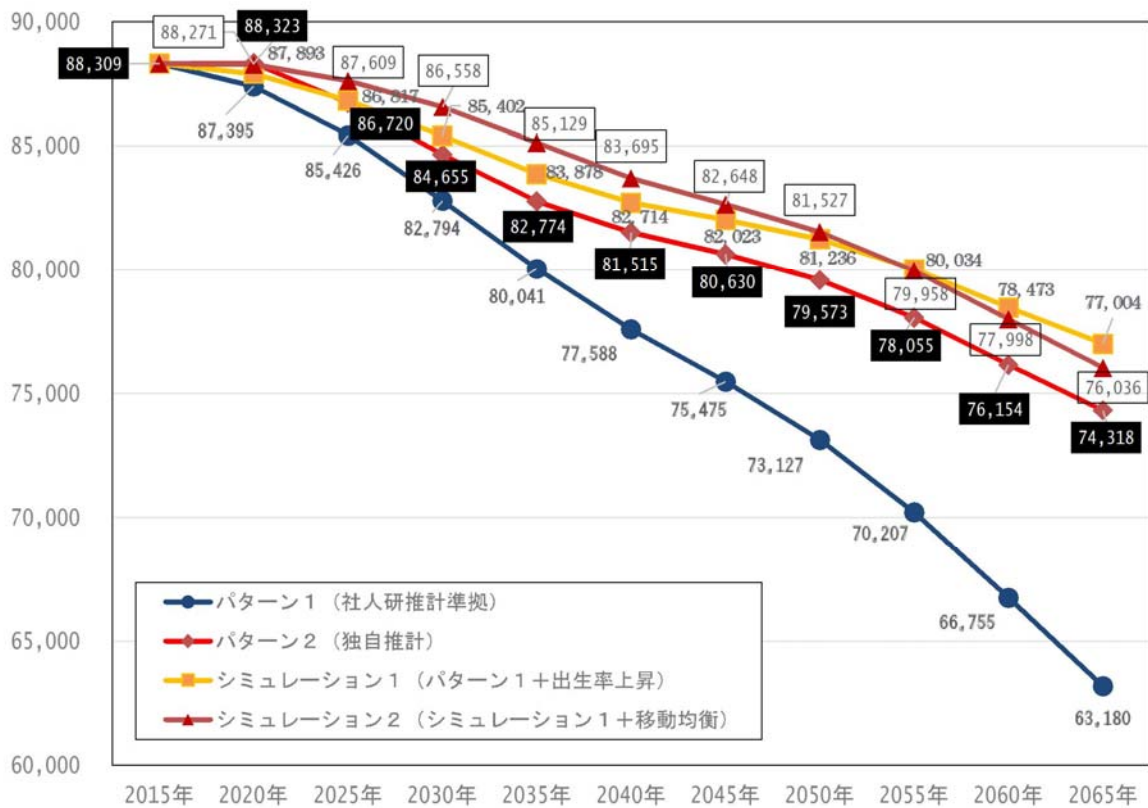
3 将来指標の設定

(1) 将来人口

全国的に人口減少時代に入っている中であって、本市は2020（令和2）年時点で依然人口増加傾向（国勢調査において最近10年間で約1,600人の増加）を示しています。一方、本市においても少子化の傾向が見られ今後の人口減少は避けられないと考えられます。

以上を踏まえ、目標年次の2032（令和14）年の将来人口は、あま市総合計画の改定、あま市まち・ひと・しごと総合戦略の推進とともに、都市計画マスタープラン改定を踏まえた暮らしやすさ・魅力を高める都市づくりの推進により人口減少を緩やかに抑えることを目標とし、第2次あま市総合計画（2022（令和3）年3月改定予定）に基づき、90,000人と設定します。

■ 将来人口推計（あま市人口ビジョンより）



資料：あま市人口ビジョン（2020（令和2）年3月改訂版）

(2) 将来市街地規模

（将来人口設定後に算出）